第五條　戸長ハ投票高點ノ者ニ衛生組長ヲ命スヘシ

第六條　衛生組長ノ任期ハ一年トス但前任者ヲ再撰スルヿヲ得

第七條　衛生組長撰擧幷退任者處分方法ハ戸長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第八條　衛生組長ハ無給トス但組合内ニ於テ適宜報酬ヲ與フルハ此限ニアラス

第九條　衛生組長ノ心得左ノ如シ

一　時々各戸ヲ巡回シ家屋及近傍ノ通路溝渠下水肥溜芥溜等ノ清潔法ニ注意スルコト

二　飲料水ノ良否ニ注意シ井側腐朽井邊不潔又ハ汚水滯留スルトキハ修繕改良若クハ洒掃疏通ヲ圖ルコト

三　種痘ハ年齢ノ少長ヲ問ハス初再三種ノ限ヲ誤ラサル樣普及ヲ圖ルヿ

四　店頭露列ノ飲食塵埃ノ附着々色料ノ良否未熟ノ果物等販賣ニ注意スルコト





五　傳染病者アルトキハ專ラ組合内ノ豫防消毒法ニ注意スルコト

六　衛生法ヲ遵守セサルモノアルトキハ丁寧反覆之ヲ說諭シ若シ肯セサルトキハ其旨戸長又ハ警察官吏ニ申出ツヘシ

第十條　組合内又ハ其近傍ニ傳染病者アルトキハ相互ニ豫防法ニ盡力スヘシ

第十一條　組合内ニ於テ傳染病死屍ヲ火葬又ハ埋葬スルトキハ相當官吏及組長ノ指揮ニ從ヒ盡力スヘシ

二十年四月縣甲第五十九號ニテ削除訂正アリ

○乙第四十七號　明治十八年五月八日

今般乙第十四號ヲ以テ墓地及埋葬取締細則布達候處右細則第十六條ニ關スル諸屆手續別紙之通相定候條此旨布達候事

但シ明治十三年(七月)縣甲第八十五號達自今廢止ス

諸屆手續

第一條　醫師ハ其施治ノ患者死亡シタルトキハ第一號書式ノ屆書ヲ死者ノ家人ニ付與スヘシ

但數醫ニテ施治セシ患者死亡セシトキハ主任ノ醫師ヨリ死亡届ヲ其家人ニ付與スヘシ

第二條　醫師ハ其施治ノ患者ニ非ルモ檢案ヲ乞フ者アルトキハ該家ニ就キ死体診案ノ末第二號書式ノ檢案書ヲ其家人ニ付與スヘシ

第三條　醫師死亡届ハ死亡地ノ戸長宛ヲ以テ付與スル者トス但死者ノ家人ニ於テ死亡地外ノ町村ニ埋火葬セントスルトキハ醫師ヨリ更ニ第九號書式ノ死亡証書ヲ付與スヘシ

第四條　死産証ハ醫師若クハ産婆ニ於テ第八號書式ノ証書ヲ其家人ニ付與スヘシ

第五條　死者ノ家人醫師ノ死亡届死亡証又ハ檢案書醫師若クハ産婆ノ死産証ヲ得テ第三第四第六號書式ノ埋火葬認許証請求届書ニ添ヘ埋葬地ノ戸長役場ニ差出スヘシ

但檢案書又ハ死産証ヲ得カタキ場合ニ於テハ第五號又ハ第七號書式ノ届書ヲ差出スヘシ

第一號

死亡届

縣國郡町村番地居住（寄留）
某父母兄弟妻子（附籍）
身分職業　氏　名
年　齢

一病名第何類ノ中何々
一何年何月何日午前後第何時死亡
右ハ拙者施治ノ患者ニ候處死去候條此段及御届候也

縣國郡町村番地居住（寄留）
醫師　氏　名

年號月日
戸長某宛

第二號

檢案書

肩書前同斷

氏名

年齡

一病名第何類ノ中何々（不明ナレハ其旨ヲ記スヘシ）

一何年何月何日午前後第何時死亡

一備考

右之者醫師ノ治療ヲ受ケス死去候ニ付前書之通死体檢案候也

年號月日

肩書前同斷

醫師　氏名

第三號

埋葬（火葬）認許御下付屆

縣國郡町村番地居住（寄留）

某父母兄弟妻子

身分職業

未婚（有配偶）
已婚（無配偶）

氏名

年齡

一何年何月何日午前後第何時死亡

一何年何月何日午前後第何時埋葬（火葬）

一埋葬（火葬）地

右埋葬（火葬）仕度候ニ付認許証御下付相成度別紙醫師死亡屆書相添此段及御屆候也

番地族籍

戸主若クハ親屬

年號月日　　氏名

戸長某宛

第四號

肩書前同斷

氏名

年齢

一前同斷

一同

一同

右埋葬(火葬)仕度候ニ付認許証御下付相成度尤モ醫師ノ治療ヲ受ケスシテ死亡候ニ付別紙醫師檢案書相添此段及御届候也

番地族籍

戸主若クハ親屬





年號月日　　氏名

戸長某宛

第五號

肩書前同斷

氏名

年齢

一病狀(知リ得ル丈ノモノヲ記スヘシ)

一何年何月何日午前後第何時死亡

一何年何月何日午前後第何時埋葬(火葬)

一埋葬(火葬)地

右埋葬(火葬)仕度候ニ付認許証御下付相成度尤モ醫師ノ治療ヲ受ケスシテ死亡候處何々ノ爲メ檢案書ヲ得カタク候ニ付親屬隣保連署ヲ以テ此段及御届候也

戸長某宛

第六號

戸主　氏　名
親属　〃　氏　名
隣保　氏　名

縣國郡町村番地居住
某妻(姉妹)身分職業
氏　名
年　齢

一何年何月何日午前後第何時死胎分娩男女
一何年何月何日午前後第何時埋葬(火葬)
一埋葬(火葬)地
右埋葬(火葬)仕度候ニ付認許証御下付相成度醫師(産婆)死産証相添此段及





御屆候也
年號月日
戸長某宛

戸主　氏　名

第七號

肩書前同斷
氏　名
年　齢

一姙娠何ヶ月私生ナレハ其旨ヲ記スヘシ
一死胎分娩ノ原因(不明ナレハ其旨ヲ記スヘシ)
一何年何月何日午前後第何時死胎分娩男女
一何年何月何日午前後第何時埋葬(火葬)
一埋葬(火葬)地
右埋葬(火葬)仕度候ニ付認許証御下付相成度尤モ何々ノ爲メ醫師若クハ産

婆ノ死産証ヲ得難ク候ニ付親属隣保連署ヲ以テ此段及御届候也

年號月日

戸主　氏　名
親属　氏　名
隣保　氏　名

戸長某宛

第八號

死産証

某國郡町村番地居住
某妻(姉妹)
身分職業　氏　名
年齢

一妊娠何ケ月私生ナレハ其旨ヲ記スヘシ
一死胎分娩ノ原因(不明ナレハ其旨ヲ記スヘシ)





右之者死胎分娩候義前書之通相違無之候也

年號月日

縣國郡町村番地居住
醫師(産婆)　氏　名

第九號

死亡証

縣國郡町村番地居住
某父母兄弟妻子
氏　名
年齢

一病名第何類何々
一何年何月何日午前後第何時死亡
右之者前書之通相違無之候也

縣國郡町村番地居住

年號月日　　醫師　氏　名

○丁第二十六號　明治十八年四月一日　戸長役場

本年二月乙第十四號ヲ以テ墓地及埋葬取締細則布達候處細則第十六條認許証左ノ雛形ノ通相定候條此旨相達候事

竪五寸

表

役場割印

火葬　埋葬認許之証

火葬雛形同斷

○縣乙第九十二號　明治十四年十一月十一日　郡役所　戸長役場

死者アリ夫婦ノ内一方既ニ舊墓地ヘ埋葬シ墓地新設ノ後其遺言ナルヲ以テ今葬致度出願者有之節ハ戸長ニ於テ聞届ヘシ此旨相達候事

仮名ヤ川端

裏

族籍身分　氏　名　年齢

病名　死亡年月日

何年何月何日何町村字何々墓場ヘ埋葬

町村戸長　氏　名　印





但其墓地餘廣ナクシテ更ニ區域ヲ擴メ埋葬候儀ハ難相成候事

○縣甲第百三號　明治十三年九月十日

産婆營業取締規則

第一條　自今新ニ産婆ヲ營業セントスル者ハ試驗ノ上其免狀ヲ付與ス

但シ從來營業ノ者ハ試驗ヲ要セス營業証ヲ付與スルモノトス

第二條　免狀及營業証雛形左ノ如シ

雛形　（用紙中奉書四ツ切）

縣名ノ割印ヲ付ス

福島縣族籍誰妻娘

第何號　姓　名

産婆免許証　年齢

年月日　福島縣

同上

福島縣族籍誰妻娘

第何號　姓　名

産婆營業証　年齢

年月日　福島縣

第三條　試驗ハ當分産婆ニ關スル緊要ノ事件二三問ヲ試ムベシ

第四條　産婆營業出願ノ者ハ第一號第二號書式ニ準據シ郡役所ヲ經テ願出ツベシ

第五條　水火盜難等ニ依リテ免狀及營業証ヲ遺失スルトキハ其事實ヲ詳記シ更ニ下渡ヲ願出ツベシ

第六條　廢業死亡若クハ他管内ニ轉籍スルトキハ郡役所ヲ經テ其旨屆出免狀營業証ヲ返納スベシ

但縣内他郡町村ヘ移住スルトキハ其時々郡役所ヲ經テ屆出ツベシ

第七條　産婆ハ藥劑ヲ投シ及ヒ器械ヲ用ユルヿヲ許サス

第八條　事故ナク人ノ依頼ヲ拒ミ又ハ不相當ノ謝義ヲ要ズル等ノ所行アルベカラズ

第一號書式

産婆營業免狀御下渡願

私（妻娘）誰儀





産婆營業爲仕度候間御試驗ノ上免狀御下渡相成度履歷書相添ヘ此段奉願候也

福島縣族籍
何郡町村番地
姓　名　印

年　月　日

衛生委員　姓　名　印
戸長　姓　名　印

縣令宛

第二號書式

履歷書

福島縣族籍
何郡町村誰（妻娘）
何　誰

何年何月ヨリ何(學校病院)ニ於テ何級(卒業修業)或ハ產婆某ニ從ヒ何年間修業云々條ヲ逐ヒ記載スベシ

何年何月

年　月　日　　姓　名　印

○乙第四十八號　　明治十八年五月八日

入齒々拔口中療治接骨營業取締規則左之通相定候條從來營業ノ者ハ來ル六月三十日限願出ヘシ此旨布達候事

入齒々拔口中療治接骨營業取締規則

第一條　入齒々拔口中療治接骨ノ業ハ明治十六年第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非レハ新ニ開業スルヲ許サス

第二條　入齒々拔口中療治接骨從來營業ノ者ハ左式ノ願書ニ修學履歷書相添願出ツヘシ

第三條　入齒々拔口中療治接骨ノ業ハ免許鑑札所持ノ者ニアラサレハ營業スルヲ許サス



第四條　免許鑑札ヲ他人ニ貸渡スヘカラス且營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス之ヲ携帶スヘシ

第五條　轉籍若クハ寄留スルトキハ其旨屆出ツヘシ

但廢業若クハ他管內ニ轉籍寄留スルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第六條　免許鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名變換セシトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札書換若クハ下渡ヲ願出ツヘシ

第七條　各營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一猥ニ施術ヲ勸メ又ハ危險ナル手術ヲ施スヘカラス

一劇毒藥配伍ノ藥劑ヲ用ユヘカラス

一路頭ニ於テ營業スルヲ許サス

一接骨營業ハ切斷術ヲ施スヲ許サス

第八條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外其營業ヲ

停止若シハ禁止スルヿアルヘシ

第何號　縣國郡町村身分
氏　名

右入齒拔齒口中療治營業免許候事
接骨〃

年月日　福島縣印

入齒拔齒口中療治營業願
接骨〃

從來入齒何々罷在候處尚引續營業仕度候間免許鑑札御下附被下度履歴書相添此段奉願候也

年號月日　縣國郡町村番地
氏　名





縣令宛

衛生委員　氏　名
戸長　氏　名

履歴書　縣國郡町村番地身分
氏　名
年齡

一何年何月ヨリ何年何月迄何誰ニ隨從何々學脩業云々逐次記載スヘシ

右之通相違無之候也

氏　名

○乙第四十九號　明治十八年五月八日

明治十三年(十一月)縣甲第百十八號針治灸治營業取締規則別紙ノ通改正候條此旨布達候事

## 針治灸治營業取締規則

第一條　針治灸治ノ業ハ營業証所持ノ者ニアラサレハ其術ヲ施スヿヲ許サス

第二條　針治灸治ノ業ヲ營マント欲スル者ハ修學履歴書及師家ノ証明書相添ヘ願出ツヘシ

但時宜ニ依リ試問スルヿアルヘシ

第三條　轉籍若クハ寄留スルトキハ其旨届出ツヘシ

但廢業若クハ他管内ニ轉籍寄留スルトキハ營業証ヲ返納スヘシ

第四條　營業証遺失毀損又ハ氏名變換シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ書換若クハ下渡ヲ願出ツヘシ

第五條　醫師治療中ノ患者ニ對シテハ主治醫ノ承認ヲ受クルニアラサレハ施術スルヲ許サス

第六條　猥リニ施術ヲ勸メ又ハ患者ニ藥方ヲ示シ藥劑ヲ與フル等ノ所爲アルヘカラス

第七條　重症ノ患者ニシテ未タ醫師ノ診察ヲ受ケサル者ヘハ施術スヘカラス

第八條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外其營業ヲ停止若クハ禁止スルアルヘシ



針治(灸治)營業願

私儀

今般針治(灸治)營業仕候間營業証御下渡被下度依テ履歴書及ヒ師家ノ証明書相添此段奉願候也

年號月日

縣國郡町村番地身分（寄留ナレハ本籍及寄留町村番地ヲ記スヘシ以下倣之）　氏名

衛生委員　氏名

戸長　氏名

縣令宛

履歴書

縣國郡町村番地身分

氏名

年齢

一何年何月ヨリ何年何月迄何國郡町村醫師又ハ針治灸治何之誰ニ從ヒ何年間修業云々逐次詳細記載スヘシ

右ノ通相違無之候也

氏名

証明書

縣國郡町村番地身分

氏名

右ノ者何年何月ヨリ何年何月マテ何年何月間私方ニ於テ針灸治何々學修業候





縣國郡町村番地身分

氏名

條此段証明候也

年號月日

乙第九十九號　明治十五年十二月十六日

牛乳搾取及販賣取締規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

但從來營業ノ者ト雖ヒ本則第一條及第十條ノ手續ヲナスヘシ

牛乳搾取及販賣取締規則

第一條　乳牛ヲ畜養シ乳汁ヲ搾取シ販賣セントスル者ハ衛生上障害ナキ地ヲ撰ミ書式ノ願書ニ豢養場ノ圖面相添郡役所ヲ經山縣廳ヘ届出ヘシ

但許可ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二條　乳牛豢養場ハ人家稠密若クハ飲料水ノ障害トナルヘキ箇所ニ設ク可カラス

第三條　乳牛豢養場ハ常ニ洒掃シテ不潔ナキ樣注意スヘシ

第四條　乳牛ハ獸醫（獸醫アラサルトキハ醫師）ノ檢査ヲ受ケ其許可ヲ經タルモノニアラサレハ豢養スルヲ許サス

第五條　牛乳ハ人身ノ健康ヲ保全スル至重ノ飲料ナルヲ以テ新鮮純良ノモノニアラサレハ販賣スルヲ許サス

但衛生課ニ於テ臨時試驗スルヿアルヘシ

第六條　病牛ノ乳汁ハ之ヲ販賣スルヲ許サス

但牛疫流行ノ際ハ販賣ヲ禁止スルヿアルヘシ

第七條　乳牛ノ分娩三週間以上ヲ經ルニ非レハ搾取販賣スヘカラス

第八條　牛乳容器ハ陶器或ハ硝子又ハ鉄葉製ニシテ蓋アルヲ用フヘシ

但器具使用ノ都度充分洗滌シ水分ノ殘留セサル樣拭乾スヘシ

第九條　傳染病患者アル家ニ牛乳ヲ搬賣スルトキハ其容器ヲ病家ニ留置ク可カラス

第十條　牛乳搾取販賣者ヨリ受賣セント欲スル者ハ該營業者ト連署郡役所ニ届出ヘシ

第十一條　乳牛頭數ノ增減アルトキハ其時々郡役所ヘ届出ヘシ

第十二條　乳牛ヲ名トシ牧畜ニ等シキ所業ヲナスヘカラス

第十三條　乳牛幷豢養場等時宜ニ依リ掛官吏ニ於テ巡視スルヿアルヘシ

（書式）

牛乳搾取營業願

何郡何町村字何番地何坪

右地所ニ於テ乳牛幾頭ヲ豢養シ乳汁搾取營業仕度ニ付別紙豢養場圖面相添此段奉願候也

年　月　日　　何郡何町村何番地士族（平民）

姓　名　印

○乙第十二號　明治十五年七月十八日

飲料水取締規則別冊之通相定候條此旨布達候事

（別冊）　飲料水取締規則

第一條　井戸水道泉水槽等ハ毎年少ナクモ一回以上必ス浚渫シ其水源及ヒ近傍ハ常ニ洒掃ヲ怠ル可ラス

第二條　井戸水泉水ハ汚水等ノ滲入セサル樣石又ハ木材ヲ以テ井側ヲ設クヘシ

第三條　井戸泉水槽ハ雨露塵埃ヲ避クル爲メ可成小屋又ハ掩蓋ヲ設クヘシ

第四條　下水溝ハ井戸流ヲ距ル三間以内ハ木石若クハ埴土等ヲ以テ之ヲ搆造スヘシ

但下水溝ヲ設クルニ支障アル地ハ水溜ヲ設クルモ妨ケナシト雖ヒ井戸ヲ距ル三間以外タルヘシ

第五條　下水溜ハ前條ニ準シテ之ヲ搆造シ該水ハ溢出セサル樣時々汲取ルヘシ

第六條　井側井戸流下水溝及溜等ノ破損シタル片ハ速ニ修理スヘシ



第七條　飲料水汲採場及其近傍ニ於テ穢垢ノ物品ヲ洗濯シ或ハ肉屑餕殘物ヲ投棄スヘカラス

第八條　井戸水道及泉水槽ハ便所肥溜芥溜其他墓地畜場屠場等接近ノ地ニ設クヘカラス

但現ニ本條ニ觸ルヽ分ハ便所其他ノ障害物ヲ離隔スヘシト雖ヒ容易ニ改造シ難キモノハ井戸水道ノ周圍ニ木炭等ヲ塡充シ汚水滲淫ヲ防クヘシ

第九條　居宅圍内ニ井戸泉水等飲料水汲採場ヲ有スルモノハ其旨門戸ニ表示スヘシ

但居宅圍外ニアルモノハ其所有主ノ姓名ヲ榜示スヘシ

第十條　飲料ニ供セス雜用ニ止ルモノト雖ヒ第一條及第九條ヲ履行スヘシ

第十一條　警察官吏若クハ衛生委員ニ於テ實地視察スルヿアルヘシ

○乙第二十一號

明治十九年三月五日

飲食物及玩弄品着色料ハ其品類ヲ撰ハス妄ニ之ヲ使用スルトキハ人身ノ健康ヲ害シ或ハ甚シキ中毒症ニ罹リ危險ノ至ニ付自今左ニ列記スル無害品類ノ右着色ニ使用スルヲ許サス此旨布達候事

但シ左ノ品類ノ外着色料ニ相用度品類ハ其品名產地或ハ製法及製造人姓名ヲ記シ現品相添ヘ願出ツヘシ

白色ノ色質類

胡粉　炭酸石灰ヨリ成ル

角粉（ツノコ）　鹿角象牙骨等ヲ白ク燒キタルモノニシテ成分ハ燐酸及炭酸石灰鹽ナリ

石膏（セキコウ）　一名硫酸石灰

白土　白色粘土ヲ淘汰セルモノ

蒿粉

アスベスト米　硅酸鹽ヨリ成ル

滑石（タルク）ヲ淘汰セルモノ　硅酸マグネシアヨリ成ル





赤色ノ色質類

鐵丹（ベンガラ）

猩燕脂（セウセンシ）　「コックスイリチス」ト唱フル小蟲ノ水液ニ浸シタル木綿ナリ

麒麟血（キリンケツ）　東印度等ニ產スル麒麟血樹ノ質ヨリ滲漏セル樹脂ナリ

燒製セル酸化鐵

茜（アカネ）草

蘇木（スハウ）

日本紅　紅花ヲ以テ製スルモノ

玫瑰（ハマナス）

代赭石ヲ淘汰セル（血石）酸化鉄ノ粘土ヲ含ムアリ或ハ含マサルアリ

赤蘇木及ブラシリー木ノ浸汁

カルタミー（紅藍ノ花ヨリ採リタル色質ナリ）ヲ

赤色ノ漆用色質

コセコールラック

護謨ラック

茜草ラック

赤蘇木ラック

酒精幷ニ「リキユール」ヲ染ムルニ用ユル色汁

美人草ノ葉汁

狗骨南天ノ實汁

覆盆子ノ實汁

黄色ノ色質類

黄土　硅酸礬土ノ含水酸化鉄ヲ混スルモノ

黄柏及黄柏越剌斯（キワダヨキス）　越幾斯トハ物質ノ浸出液ヲ蒸發シテ製スルモノヲ云フ以下同シ

泊芙蘭（サフラン）

山梔子（クチナシ）





栁皮（ヤナギ）幷煉スミ　榮梨（サワナシ）ノ皮ヲ以テ製スルモノ

狗骨南天越幾斯

鬱金（ウコン）　鬱金根ヨリ製シタルモノハ毒ナシト雖モ坊間ニ於テ鬱金砂ト稱スル者ハ即チ「ピクリン」酸ニシテ毒アリ注意スヘシ

青色ノ色質類

生藍

藍紙　千草紙

花藍螺

棒藍露

玉藍露

赤蘇木ノ「アリカリ」性浸液幷越幾斯ヲルサイレ　海草ヨリ得タル暗青色ノ泥

紫色ノ色質類

ラックムース

紫草根中ノ色質

此他前ニ記載スル無害ノ赤色及青色々質ノ混合物

綠色ノ色質類

青粉　野菜ヲ以テ製スルモノ

挽茶（ヒキチヤ）

綠汁　鼠李ノ未熟ナル實ヲ細末トシ泡醸セシメ其液ニ明礬ヲ混シ加里ヲ以テ沈澱セシメタルモノ

綠土　硅酸亞酸化鉄ノ加里マクヲシア及粘土ヲ混スルモノ

此他前ニ記載スル青色及黃色々質ノ混合物

褐色ノ色質類

代赭石（タイシヤセキ）

赤石脂（イシツタ）　酸化鐵粘土含有ノ者

蕨粉（ワラビコ）

蒲黃（ガマ）

桂枝





綠土　洋名（ウンブラ）粘土ニ含水酸化鉄及含水マクヲシアヲ混スルモノ

鑛綠　洋名（ビースステル）酸化滿俺ト過酸化滿俺トヨリ成ル

此他無害ノ赤色及黑色々質ノ混合物

黑色ノ色質類

骨炭

玉墨

黑石脂（クロツテ）　黑色ノ「パラヒート」

油烟

松烟（マツホコリ）

煤　植物性ノ炭

鑛色ノ色質類

雲母（キラヽ）

純金箔及粉

純銀箔及粉
純錫箔

○告諭第三號　明治二十年四月廿二日

飲食物ニ土砂塵埃又ハ蠅虫類ノ付着點集スルハ啻ニ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介トナルノ恐アルニ付店頭露列ノ飲食物ニ覆蓋ノ旨曾テ告諭及置候處于今實施セサル向モ有之哉ニ相聞候條追々温暖ノ候ニ際シ惡疫發生ノ憂モ有之候ニ付販賣者ニ於テ厚ク此意ヲ體シ店舗又ハ路傍ニ露列シ或ハ行商スル飲食物ニシテ其儘食用スヘキ物ニハ必ス適宜ノ覆蓋ヲ設クヘシ

○縣令甲第七號　明治二十年一月十六日

明治十九年十月縣令甲第三十八號獸醫免許規則第五條ニ依リ假開業免狀出願者心得左ノ通更正ス

假開業獸醫免許手續

第一條　獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫ノ居住所ヨリ一日中ニ往復シ能ハサル土地ニ限ル

第二條　假開業免狀ヲ得ント欲スルモノハ別紙書式ノ願書ニ履歴書ヲ添ヘ當廳ヘ差出スヘシ

第三條　假開業獸醫ハ一區域內一人トス

第四條　假開業獸醫免許ノ年限ハ滿二ケ年トス

但免許期限ヲ經過スルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ出願スルヿヲ得

第五條　假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲナスヲ得スト雖モ其區域內ニ牽來リタル病畜ヲ治療スルハ妨ケナシ

第六條　假開業獸醫ニシテ本免狀ヲ受ケタルトキハ假開業免狀ヲ當廳ヘ返納スヘシ

第七條　假開業獸醫免許年限中其區域內ニ於テ本免狀ヲ受ケタル獸醫ノ開

業者アルトキハ假開業者ノ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第八條　假開業獸醫ニシテ免狀ノ有効期限ヲ經過シタルトキハ該免狀ヲ當廳ヘ返納スヘシ

別紙書式（用紙美濃又ハ奉書紙正副三通）

獸醫假開業免狀下付願

住所（寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ）

族籍

氏　名

年月生

私儀何郡何町村何當地ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假開業免狀御下付被成下度別紙履歴書相添此段奉願候也

年　月　日

右　氏　名　印

戸長　氏　名　印





農商務大臣宛

履歴書式

一何年何月ヨリ何年何月迄何地何之誰ニ就キ同々脩業

一何年何月ヨリ何年何月迄何々學校ニ於テ何々脩業

一何年何月ヨリ何地ニ於テ獸醫開業何年何月何地ニ移轉引續キ開業

一何年何月ヨリ何地ニ講習所ニ於テ何々學受業

一何年何月ヨリ何年何月迄何頭ノ牛馬治療ス

右ノ通相違無之候也

年　月　日

住所

族籍

氏　名　印

年月生

○訓令甲第十五號

明治二十年一月十六日

郡役所

客年十月縣令甲第三十八號獸醫假開業免狀出願者心得本年一月縣令甲第七號ヲ以テ更正候ニ付テハ自今假開業免狀ヲ願出ツル者アルトキハ獸醫欠乏ノ土地ニ限リ區域見込ヲ立テ左ノ書式ニ據リ其地勢廣狹牛馬頭數等詳細取調本人ノ願書ニ履歷書ヲ副ヘ進達スヘシ

書式

獸醫假開業出願書調書

住所

族籍

氏名

年月生

一營業區域何郡一圓又ハ何郡ノ內何町村列記ス

區域內地勢

同　廣狹





二十一年四月縣甲第三十五號ニテ改正追加アリ

同牛馬頭數

營業年限何ヶ年

開業獸醫居住地ヨリ假開業獸醫營業區域境界マテノ最近距離何里

明治二十年五月三日

○縣令甲第七十六號

獸類屠殺場幷獸肉販賣取締規則左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス

但明治十五年縣甲第九十三號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

獸類屠殺場幷獸肉販賣取締規則

第一章　獸類屠殺場

第一條　屠殺場ハ自用ト販賣トヲ問ハス牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス其場外ニ於テハ一切屠殺スルヿヲ得ス

第二條　屠殺場ヲ新設若シハ移轉セントスル者ハ其願書ニ屠場圖面ヲ添ヘ所轉郡役所ヲ經テ縣廳ヱ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　屠殺場ノ免許ヲ得タルトキハ速ニ所轉警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第四條　屠殺場ノ位置構造等ハ左項ニ從フヘシ

一　屠殺場ノ位置ハ人家ヲ距ルコト六十間以上飲料水ヲ距ル二三十間以上タルヘシ

二　屠殺場ノ周圍ニハ土手又ハ墻塀等ヲ設クヘシ

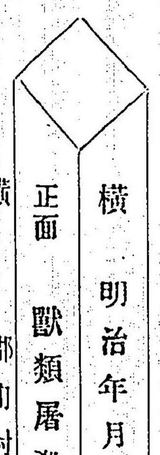
三　屠室ノ地盤ハ瓦石又ハ厚板ヲ以テ敷設シ汚水ノ滲透ヲ防キ内部ノ四壁ハ板ヲ張リペンキヲ以テ之ヲ塗ルヘシ

四　汚物溜ハ瓶又ハ不滲透質ノモノヲ以テ屠室外九尺以上ノ地ニ設ケ且適當ノ蓋ヲ備フヘシ

第五條　屠殺場ハ常ニ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條　臓皮骨及血液汚水汚物ノ類ハ屠殺終リタル毎ニ之ヲ取除クヘシ

第七條　屠殺場ニハ左式ノ標柱ヲ建設スヘシ








第八條　屠殺スヘキ獸類ハ先ツ獸醫ノ檢査ヲ受ケ該鑑定書ヲ添ヘ屠殺前日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第九條　臨場官吏ニ於テ病獸又ハ肉質不良ト認ムルトキハ其屠殺若クハ販賣ヲ禁止スヘシ

第十條　屠殺ノ手數料ハ屠獸ノ種別ニ依リ其額ヲ定メ豫テ所轄郡役所ヘ届出認可ヲ受クヘシ

但其認可ヲ受ケタル者ハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十一條　營業者轉居又ハ氏名變換等ノ節ハ鑑札書換ヲ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ツヘシ

但許可ヲ得タルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十二條　廢業又ハ屠殺場ヲ改修セントスルトキハ其旨所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出同時ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

## 第二章　獸肉販賣

第十三條　牛馬羊豚肉ヲ販賣セント欲スルモノハ所轄郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第十四條　營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメントスルトキハ所轄郡役所ニ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際ハ必ス之ヲ携帶スヘシ

第十五條　牛馬羊豚肉販賣免許ヲ受ケタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ

第十六條　家畜ノ獸肉ハ牛羊豚ノ外販賣スルヲ許サス

第十七條　不良ノ肉ハ勿論他ノ獸肉ヲ混淆シテ販賣スヘカラス

第十八條　營業者ハ店頭ニ左式ノ看板ヲ掲クヘシ

牛（馬羊豚）肉販賣營業
郡町村　氏名

長三尺
巾八寸



第十九條　馬肉ト他ノ獸肉ト同一ノ場所ニ於テ販賣シ又ハ馬肉ト他ノ獸肉ト同一ニ行商スルヲ許サス

第二十條　家畜流行病ノ節ハ其獸肉ニ限リ一時販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第廿一條　掛官吏ハ隨時賣肉ヲ檢査シ食用ニ害アリト認ムルトキハ販賣ヲ停止スヘシ

第廿二條　營業者及行商人轉居又ハ氏名變換等ノ節ハ鑑札書換ヲ所轄郡役所ニ願出ツヘシ

但許可ヲ得タルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ

第廿三條　廢業シタルトキハ速ニ所轄郡役所同警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ

## 第三章　罰例

第廿四條　第一條二條第八條第十三條第十四條第十九條ニ違背シタル者ハ

一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第廿五條　第十條第十一條第十六條第廿二條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第廿六條　第三條第七條第十二條第十五條第十八條第廿三條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

從來ノ營業者ハ本則施行ノ日迄ニ第二條第十七條第十四條ニ據リ更ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

但其願出中ハ引續營業スルヲ得

○訓令甲第二百九十九號　明治廿二年十月八日　郡役所

本年(五月)縣令甲第七十六號獸類屠殺場並獸肉販賣販締規則第二條及第十三條第十四條ニ依リ營業者ヘ下付スヘキ免許鑑札書式左ノ通相定ム





書式

第　號

獸類屠殺場免許証

郡町村番地

氏　名

合章

郡町村番地

一獸類屠殺場　壹ヶ所

右免許候事

明治年月日

福　島　縣印

第　號

獸肉販賣免許証

郡町村番地

氏　名

合章

一牛(馬羊豚)肉

右販賣免許候事

明治年月日

何郡役所印

右用紙　奉書又ハ西ノ内四ッ切

第　號

表

一牛(馬羊豚)肉行商鑑札

郡町村番地

行商人　氏　　名

ヤ　リ

裏

明治　年　月　日

郡役所印　郡役所　戶長役場

烙印

右用材適宜

○訓令甲第三百卅五號　明治二十年十二月三日　郡役所　戶長役場

本年(五月)縣令甲第七十六號獸類屠殺場幷獸肉販賣取締規則ニ據リ屠殺セル牛馬羊豚數左ノ書式ニ照準取調戶長ハ毎月二日限リ郡長ニ差出シ郡長ハ同月五日限リ本廳ヘ差出スヘシ

獸類屠殺數報告

一牛何頭　內牝何頭　牡何頭





一馬何頭　內牝何頭　牡何頭

一羊何頭　內牝何頭　牡何頭

一豚何頭　內牝何頭　牡何頭

右何月中屠殺セル獸類取調候條此段及報告候也

明治年月日　郡長(戶長)　氏　　名

○縣令甲第八十八號　明治廿一年十月廿七日

凍氷營業取締規則左ノ通相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

但明治二十年縣甲第百二十一號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

凍氷營業取締規則

第一條　販賣ヲ目的トシテ凍氷ヲ製造シ又ハ貯藏セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シタル調書ヲ添ヘ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

但製氷用水凡ソ四合以上ヲ添付スヘシ

一　製氷場貯藏場ノ位置

二　製氷幷貯藏ノ方法及貯藏場構造法

三　製氷場貯藏場近傍明細圖

第二條　製氷場貯藏場ハ實地檢査シ障害ナキ地ニアラサレハ之ヲ許サス

第三條　第一條ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ製造又ハ貯藏シタル凍氷ヲ發賣セント欲スルトキハ概ネ其斤數ヲ記載シ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出檢査ヲ受クヘシ

但檢査用トシテ凍氷五斤以上添付スヘシ

第四條　凍氷試驗ノ上其質善良ナルモノハ第一號書式ノ檢査証ヲ付與シ不良品ハ之ヲ棄却セシムルヿアルヘシ

第五條　他管ヨリ輸入ノ凍氷ヲ發賣セントスルトキハ該管廳許可ノ証ヲ添ヘ第三條ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　卸賣小賣又ハ行商ヲ爲サントスルモノハ凍氷檢査証ノ寫ヲ添ヘ所轄郡役所ニ願出免許ヲ受クヘシ





第七條　行商者ハ所轄郡役所ヨリ鑑札ヲ請ケ行商中常ニ携帶スヘシ

第八條　卸賣小賣者ハ第二號書式ノ看板ヲ掲クヘシ

第九條　凍氷製造貯藏及販賣免許ノ期限ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日迄トス

第十條　凍氷製造及貯藏出願期限ハ前年期十一月十五日限リトス

第十一條　第一條第三條第五條第六條ノ許可ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

第十二條　製造場幷貯藏場ハ常ニ清潔ニスヘシ若シ不潔ニシテ有害ノ虞アルトキハ修理又ハ場所換ヲ命スルヿアルヘシ

第十三條　檢査濟ノ後ト雖モ係官吏ハ時々凍氷ノ檢査ヲ爲シ不潔又ハ有害ト認ムルトキハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルヿアルヘシ

第十四條　第一條第三條第五條ニ違背シタルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十五條　第六條第七條第八條第十一條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

凍氷檢査証

第何號　何郡何村何番地
製造人
何　某

合章

製造地名
一凍氷大凡見積何万斤
右凍氷檢査ヲ遂ケ飲料ニ供シ無害タルヲ證明ス
年　月　日
福島縣第二部衛生課印





第二號書式

何郡何町村氏名製造
何地凍氷（卸賣）（小賣）所
郡町村
販賣人　氏　名

二尺五寸　七寸

何郡何町村氏名製造
何地凍氷小賣所
郡町村
小賣人　氏　名

二尺五寸　七寸

表

第何號
凍氷行商鑑札　郡役所印
郡町村番地族籍
行商人　氏　名

三寸　烙印

裏

年　月　日
郡町村番地製造
凍氷
郡町村番地族籍
製造人　氏　名

○甲第八十九號　明治廿一年十月廿七日

本年十一月一日ヨリ積雪販賣ヲ停止ス

○諭告第三號　明治廿一年十月廿七日

凍氷製造及貯藏方法製氷者心得ノ爲メ左ニ其概畧ヲ示ス

氷製造及貯藏方法心得

第一　氷製造法

天然氷ヲ製造シテ飲料ニ供セント欲スルニハ製氷場即チ氷池ヲ撰定設置スルヲ第一トス凡ソ製氷場ヲ設クルハ湧泉溪流清水等水質ノ善良ナルモノヲ撰ミ其近傍ニテ汚穢物ノ混入スル憂ナキ清潔ノ地ニ就キ池ヲ堀リ以テ製氷場トナスヘシ決シテ耕地等ヲ流過シ來ル處ノ池沼川流或ハ田面溝渠等誘害物ヲ含有セル恐アル場所ニ於テ製造ヲ爲ス可ラス

製氷場ヲ設置スルニ當リ製氷者ニ於テ最モ注意スヘキモノハ成ルヘク日光ヲ避クルノ地ヲ撰ニアリ故ニ西南或ハ東南ニ山峯又ハ岡陵ヲ控ヘ或ハ森林鬱茂ノ蔭ニシテ終日太陽ノ光線ヲ蔽遮蔭翳シ常ニ風ノ吹キ通ス地ヲ以テ適當ナリトス

一製氷場ハ特ニ池ヲ堀リ以テ新設スルヲ第一良シトス然レトモ水質善良ニシテ汚穢物含有セル憂ナキニ於テハ山間等ニアル在來ノ池ヲ用ユルモ可ナリトス又木板ヲ以テ箱ヲ製シ製氷用ニ供スルモ亦可ナルモノナリ

一製氷場ノ構造方ハ氷池ノ内面悉皆敷石煉瓦或ハ木板ヲ以テ圍ヘ又ハ「セメント」叩ニスルヲ第一トス然レトモ地質ニヨリ汚泥池水ニ混入スルノ憂ナキ地ニアリテハ池底面ヘ小砂利等ヲ敷クカ如キ便宜ノ方法ヲ設クルモ妨ナカルヘシ

一在來ノ池ヲ以テ製氷場ニ充ントセンニハ毎年八九月ノ頃ニ於テ池中ノ蕪穢汚泥ヲ浚渫シ夏中ノ腐敗水ヲ落シ更ニ清水ヲ引キ入レ又之ヲ落シ如此掃除スルコト再三充分池中ヲ清潔ナラシメ而シテ十月下旬ニ至リ更ニ清水ヲ引入レ結氷セシムヘシ

一氷池ニ引入ルコハ樋管ヲ以テシ樋ノ上端口ニハ細目ナル漉網ヲ以テスルカ又ハ適宜ノ裝置ヲ設ケ塵芥ノ流入ヲ防クヘシ

一氷池溜水ノ量ニ於ケル一定ノ度ヲ失セサル樣注意スヘキモ亦緊要ノコトナリトス若シ凍氷半ニ際シテ水量俄ニ減少セルカ如キコトアレハ凍氷自ラ其重量ニ堪エス下ニ低リテ破裂スルノ憂アルノミナラス水量ノ增減ハ大ニ凍氷ノ厚薄上ニ關係ヲ來スモノナリ故ニ氷池ノ水量ニ增減ヲ來サヾルカ爲メ終始一定ノ少量水ヲ掛ケ流シ置クヘシカクスルトキハ又氷池ニアル溜水ヲ腐敗ヲ防クノ便アルモノナリ

一氷池ニアル水量ノ多寡池底ノ淺深ハ凍氷ノ厚薄上ニ關係スルヲ以テ寒暖ノ強弱ニヨリ度ヲ計リテ溜水ノ分量ヲ定ムルモ亦製氷者ニ於テ最モ必要ナル務トス如何トナレハ寒氣ノ弱キ地ニアリテ多量ノ水ヲ氷池ニ引置クトキハ水温冷却スルノ力弱ク隨テ凍氷スルノ薄キヲ見ルナリ而シテ寒氣ノ強キ地ニアリテ又少量ノ水ヲ溜メ置クトキハ氷池中一滴ノ水ヲモ洩サ





ス悉皆結氷スルヲ以テ伐氷ノ際困難スルノミナラス到底善良ノ凍氷ヲ得ル能ハサルナリ故ニ假令ハ凡ソ壹寸乃至貳三寸凍氷セシムル地ニアリテハ溜水ノ量壹尺乃至貳尺ヲ度トシ四寸乃至五六寸凍氷スルノ地ニ於テハ溜水ノ量貳尺乃至三四尺ヲ限リトセハ可ナルモノナリ

一烈風ノ爲メ土砂塵芥等ヲ氷池中ヘ吹キ入ルコトアリ然ルニ氷池ノ溜水未タ結氷セサルトキハ其氷ヲ落シ新ニ清水ヲ引入レ又已ニ結氷セサルニ於テハ其凍氷ヲ排除スルヲ要ス假令細微ノ土砂塵芥ト雖モ一段凍氷中ニ混入スルニ於テハ試驗上成績ノ不良ナルハ勿論夏期飲料ニ際シ「コップ」ノ中ニ沈澱シ顯ハルヽモノナリ故ニ氷池ノ近傍ニハ土砂塵芥等ノ障害ナキ地ヲ撰定スルモ亦緊要ノコトナリ

一池水已ニ凍リテ未タ伐氷ノ期ニ至ラサル內降雪アリテ氷上ニ堆積スルトキハ務メテ此レヲ拂ヒ除ケサルヘカラス然レトモ凍氷未タ貳寸以下ノ時ニ當リ俄然暖氣トナルノミナラス時トシテハ雨雪ノ交降シテ氷上ニ堆積

スルトキハ薄氷ニ重荷ヲ負ヘ遂ニ凍氷沈ミ墮テ氷上ニ水ヲ受ケ又寒氣ト
ナリ氷上ノ濕雪一時ニ變シテ結氷スルコトアリ此レ即チ塵芥交リノ雪氷
コシテ販賣許可ヲ得サルハ多ク此レ等ノ分ナリ故ニ廢棄スルノ外ナキナ
リ

## 第二　伐氷法

一伐氷ノ期節ハ小寒大寒ノ交ニ於テ極寒ノ日ヲ良トスト雖モ氣節ノ變動ヲ
推察シ伐氷ノ期ヲ誤ラサルヲ必要ナリトス如何トナレハ己ニ適度ノ凍氷
ヲ得ルモ伐氷ノ時期ヲ誤リ遷延スル内俄然南風温暖ノ氣ヲ催スカ或ハ降
雨ニ遇ヒ己ニ結氷シタルモノ假令全氷融解セスト雖モ表面幾分ノ融解ス
ルトキハ氷ノ厚サ啻ニ減少スルノミナス亦俄ニ寒氣トナリ
表面一旦融解セル氷氷再ヒ凍リテ氷トナルヿアリ此亦粗鬆不透明塵芥混
リノ凍氷ニシテ不良品ノ一ナリトス
一凍氷ヲ伐採スルノ法ハ先ツ伐氷セントスル寸尺ニ從ヒ隨意縱横ニ定期板





ヲ以テ氷面ヘ伐採スヘキ筋ヲ劃シ然ル後チ大鋸ヲ以テ挽切ルヘシ然レト
モ便宜一方面ヨリ氷一枚ツヽ伐リ離スヘキモノニシテ若シ數枚ヲ連チ或
ハ氷池ノ四隅ヲ先ニ伐リ離ストキハ伐氷上甚タ困難ヲ來スノミナラス亦
收獲上損失ヲ招クモノナリ己ニ伐リ離シ枚々箇々池氷中ニ浮游セル氷ヲ
竹竿端等ニ鉤ヲ付シ之ヲ以テ引集シ或ハ米鋏ト稱スルモノヲ造リ之ヲ以
テ引揚クルハ便ナリトス
一凍氷ヲ伐採スルノ尺寸ハ一定ノ法アルニ非スト雖モ長サ貳尺横壹尺五寸
ト爲スハ運搬便利ニシテ兼テ又見分上宜シキモノナリ
一伐採セシ凍氷ハ假リニ日除ケ小屋ヲ設ケ之ニ積置キ一夜以上暴露スルヲ
以テ却テ氷質ヲ堅緻透明ニスルモノナリ然レトモ太陽ノ光線ヲ避クヘシ
若シ日光ヲ受クルトキハ氷質透明ヲ失シ脆粗不良ノ氷ト變スルモノナリ
一伐氷後氷室ヘ運搬ノ際土砂塵芥等ノ附着セサル樣注意スヘシト雖モ亦誤
テ少シク土砂ノ點付スルコトアルハ敢テ憂フルニ足ラサルナリ然レトモ

藏積ニ際シテハ充分注意ヲ加ヘ土砂ノ附着シアル部分ハ能ク削リ取ルヘシ

## 第三　貯藏法

一氷室ノ構造法ハ至要ノ事ニシテ氷室構造ノ完備スルト否トハ貯氷減否ノ度ニ大ナル關係アルモノナリ故ニ貯氷者ニ於テハ氷室ノ構造ニ最モ注意スヘキモノトス先ツ氷室構造方ノ概略ヲ示サン外圍ハ尋常日本造リノ土藏トナシ其内側面ヨリ四邊凡三尺ヲ隔テ二重室ヲ築造スルニ煉瓦又ハ木板ヲ以テ構造スルヲ良トス此二重室ノ外側面ト外圍土藏ノ内側面トノ三尺ノ空間ニハ四圍トモニ大鋸屑ヲ以テ充塞シ而シテ氷室中土間ノ部分ハ「セメント」叩ノ流シ形ニスルカ或ハ木板ヲ以テ構造スルカ又ハ氷室ヲ建設スルニ當リ砂地ヲ撰ミテ設置スルカ何レノ方法ニヨルモ適宜ノ勾配ヲ付シ貯氷融解水ノ室中ニ滯溜スルノ憂テ防クヘシ若シ氷室中ニ水ノ滯溜スルコトアレハ貯氷ヲ損害スルモノナリ故ニ敷椽ヲ設クルヲ良トス次ニ



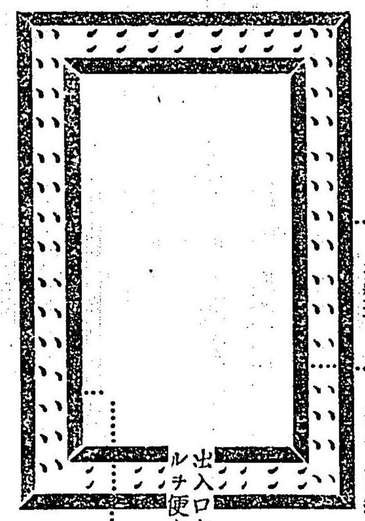
天井ノ構造ハ氷室ノ大小ニヨルト雖モ中間ニ一二ケ所ノ口ヲ設ケ氷蒸氣ノ蒸騰發散スルノ便ヲ設クルヲ良トス其外天井上ニ大鋸屑五寸以上敷キ置クニ堪ユヘキ堅固ノ構造ニヨルヘシ而シテ出入口ハ上下二ケ所ニ設クルヲ最モ便ナリトス

一前項ノ外氷室ヲ三重造トナス亦良シトス其方法ハ外一重ノ構造ハ日除ケトナスニ足ルヘキ構造ニシ即チ尋常家屋造ニシ内第二重造リモ亦煉瓦ヲ以テスルカ或ハ尋常家屋造リトシ内第三重造ニ至リテハ木板ヲ以テ構造スルモ可ナリトス而シテ第二三重室ノ中間ニハ大鋸屑ヲ充塞スルモノナリ

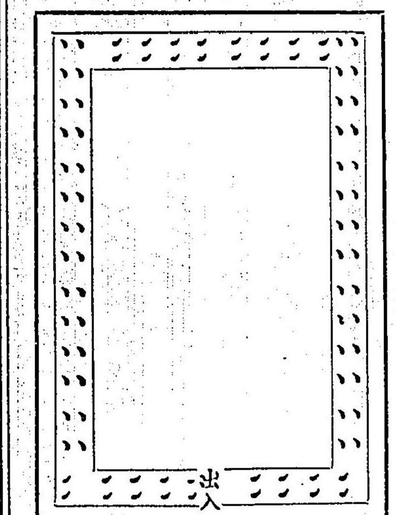
一又土窟ヲ以テ氷室トナスモ亦前項ニ準シ土窟中ニ二重ニ木板ヲ以テ圍フカ又ハ石ヲ疊ミ築造スルカ何レニヨルモ土崩ヲ防クニ堪ユヘキ構造ヲ設クヘシ

氷室構造ノ略圖ヲ左ニ示ス

第一圖




第二圖








一凍氷貯藏ノ法ハ平面積トナスヨリ横面積トナスヲ良トス平面積トセハ暖暑ノ候ニ至リ漸々貯氷自然ニ融解シ其融解水積氷間ニ滞溜スルノ憂アリ且ツ氷ノ滞溜ハ融解力ヲ増進スルノ勢アリ故ニ横面積トセハ此憂ヲ防クノ便アルモノナリ此レ必竟氷ノ性質タルヤ霜柱狀ニ結氷スルモノナレハナリ

一貯氷ハ大鋸屑ヲ以テ圍繞充塞シ空氣ノ侵入ヲ防クヲ要ス故ニ積氷接合ノ空間ニハ大鋸屑ヲ充塞シ空氣ノ流通ヲ防塞スヘシ然レトモ又氷屑ヲ細粉ニ碎キ此ニ代用充塞スルモ却テ益アリトス

一氷ト氷ノ間ニ一々鋸屑ヲ圍繞スルニ及ハスト雖モ積氷重疊ノ間ハ一層毎ニ鋸屑ヲ敷クヲ便利トス積氷間ニ鋸屑ヲ用ヰス氷屑ヲ以テ其間隙ヲ充塞セントスルトキハ自然ト凝固シ氷室中一氷塊トナリ藏出ニ際シ困難ヲ來スノ憂アリト云フ

一貯氷後五六月ノ候ニ至リ時々氷室ヲ巡視シ積氷中空隙ヲ生スル所アレハ

勉メテ大鋸屑ヲ以テ充塞密閉シ外氣ノ積氷間ニ侵入スルヲ防グヘシ

第四　雑法

一貯氷ノ融解減少スル比例ハ大略始メ壹万斤貯氷セルモノハ暑中販賣即チ賣上高ニ至リテハ五六千斤ニ過キサルモノナリ其甚シキニ至リテハ三四千斤ニ止マルモノアリ如斯貯氷減少ノ差異アル所以ノモノハ氷室構造ノ完否及注意ニ關係スヘシト雖モ亦暑中藏出ニ際シ一氷室ニ於ル一週日前後ヲ以テ賣却スルモノト二週或ハ三週以上ニ亘リ屢々氷室開閉シ賣捌キヲ爲スニ依ル此レ必竟外氣侵入ノ爲メ大ニ融解力ヲ増進シ減少ヲ來スコヨルモノナリ

一氷池及氷室ヲ設置スルハ衛生上及凍氷ノ如何ニ注意スヘキハ勿論ナリト雖モ又營業者ニ於テハ運搬及販路ノ點ニ注意シ其始ニ於テ計算ヲ立サル可カラス如何トナレハ假令善良ノ凍氷ヲ得ルト雖モ通路嶮峻等ノ爲メ運搬上意外ノ失費ヲ來シ販賣上收支相償ハサルコトアレハナリ



一氷ノ斤數ヲ推測計算スルノ法ハ六尺立方ヲ五噸トス（一噸ハ凡我二百七十二貫目）而シテ又長サ二尺横一尺五寸ノモノハ厚五分ヲ以テ一貫目ト計算スルモノナリ

○縣甲第百二十一號　　明治十三年十一月廿四日

藥湯營業ノ者ハ自今戸外ニ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ此旨相達候事

堅三尺

免許藥湯營業

縣國郡町村士族又ハ平民

何之誰

○縣甲第三十六號　　明治十三年四月一日

本年一月太政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並ニ第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致筈ニ候條心得違ノ者無之樣可致此旨相達候事

（參考）

太政官第一號　　明治十三年一月十七日

藥品取扱規則左ノ通相定メ來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年（二月）第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條　凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類（注意藥）トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類（毒藥）トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類（劇藥）トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶齎シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條　第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品（故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノヽ類ヲ云フ）ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試驗ヲ受クルコトヲ得

第三條　第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條　第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條　第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條　第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋品（故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量ヲ增スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノヽ類ヲ云フ）敗品（總テ酸敗、風化、或ハ潮解シ若クハ黴醭ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノヽ類ヲ云フ）ヲ販賣スルモノハ其贋敗品ヲ沒入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スル者ハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ一日以上廿五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ



第七條　右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類（注意藥）表

印度大麻葉及其製劑○ラウトウ葉并根及其製劑○バクド及其製劑○マチン及其製劑○ユウサンテツ○プペシネ○吐根○吐酒石○トサ精（アンモニア水）○ヂキタリス葉及其製劑○カラバル豆及其製劑○肝油○ヨヂウム○ヨウドカリ○ヨウトテツシヤリベツ○第一ヨウドコウ（黃色ヨウコウ）○第一コロールコウ（カンコウカロメル）○第二コロールコウ（シヨウコウ、ソツピル）○猛コウ（マード）○炭酸アンモニヤ（トウサクワ）○ロウリイルケルス水并クペントウ水○マンタラケ及其製劑○ヤラツパ脂并球根及其製劑○ゲンセイ（班猫）○コヽロホルム○コロラルヒダラート○コルシユルムノ實及其製劑○コロキントノ實及其製劑○アトロヒネ鹽類○阿片製劑○サントコーネ○サクサンアンモニア水（ミンデレリ精）サル

サコン○サリシールサン及鹽類○キナヒ○キニーネ鹽類○メンマ及其製劑○セウサンギン○シキウダサウ及其製劑○シユサンセリウム○シウソ加里(「ブロームカリウム」シウソポツダアス)○エーテル(アーテル)○エンキ性セウサンソウゴン○ヒヨス葉及其製劑○ヒマシ油○モルヒネエンルイ○水素クワンゲンテツ

第二類(毒藥)表

リン○カンダリギーネ○クラーレ(シユドク「ウラヽ」)○アヒサン(異名ハクヒ石、ヨセキ、「アルセンツキ」其製劑及ヒ抱合物「鷄冠、雄黃雌黃ノ類」)キハツクヘントウ油○有毒性アルカロイド幷其鹽類。ニコチネ。ギキタリネ。ナルセーネ。ヴエラトリチ。ブルジチ。コニーチ。アトロピチ。アコニチチ。エメチチ。ヒヨシアミチ。モルヒチ。ストリキニーチ等○猛劇コウザイ。ハクコウコウ。第一ヨウコウ。第二ヨウコウ。シヨウコウ。セキコウコウ。セウサンアサンカコウ。セイサンコウ。セイセイコウ ○セイサン及其製劑

第三類(劇藥)表

印度タイマ葉及其製劑○ラウトウ葉幷根及其製劑○マチン及其製劑○パヅ及パヅ油○パクト及其製劑○ポドヒリーン○ヘルレボル根及其製劑○トコン及其製劑○トシユセキ其他アンチモニ製劑○ドクウキヨ及其製劑○藤黃ギキタリス葉及其製劑○リウサン○カラバルヅ及其製劑○カセイカリ(腐蝕加里)○カセイソウダ(腐蝕曹達)○ケシユ及ケシセイ○カンコウ及ケイフン。コウクワイサン。ランガン○ヨヂウム及其製劑○ヨウドカリ○ヨヂウム鐵○ヨードホルミウム○ソウランギクキウコン(ウヅ)○附子及其製劑○ロウリイルケルシ水幷クヘントウ水○ヴエラトリ根○クワサンマンガンサンカリ及曹達○ヤラツパシ幷キウコン及其製劑○マンダラケ葉及其製劑○ケンセイ(班猫)及其製劑○ケレチソート○ブロミウム(ブローム、臭素)○コロームサン○コルシクム實幷根及其製劑○コロシ

ント寶及其製劑○コロヽフオルム(メイモンスイ)○コロトンコロラアル
ヒドラート○コロラアルヒドラートコロダイン○コロームサンカリ及シ
ウコロームサンカリ○アヘン及其製劑○アエンクワ其他アエン製劑○サ
ビナ葉及其製劑○サクサンエン(エントウ)其他鉛製劑○サントコーヂ○
ジサクサンドウ其他銅製劑(サンクワトウ、タンハンノ類)○セウサン(セ
ウセキセイ)○セウサンキン○シユキウトウ葉及其製劑○シユウソカリ
○鹽サンカイエンセイ、(鹽化水素酸)○鹽化金ナトリウム○エンサンジ
ウド其他ジウド製劑○エンキセイセウサンサウエン其他サウエン製劑○
エウホルビウム及其製劑○ヒヨス葉及其製劑○石炭酸○ズイコウヒ及其
製劑○スカンモニー脂

○縣甲第三十號　　明治十年四月十五日

本年一月太政官第七號ヲ以テ賣藥規則公布相成候處乙第卅二號ヲ以テ內務
省ヨリ別冊之通手續書及書式雛形達相成候條此旨布達候事





內務省乙第三十二號　　明治十年三月十二日

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛
形ニ照準取扱可申此旨相達候事

(手續書中抄錄)

一賣藥營業者幷ニ請賣者免許看板ハ左ノ通リ製セシムヘシ

免許賣藥營業

寸法同上

免許賣藥請賣業

賣藥營業願書式(明治八年內務省乙第九十八號達雛形ニ照準スヘシ)
(明治八年七月廿五日乙第九十八號摘錄)

賣藥願書雛形

賣藥檢查御願

一方名

一劑ノ量

何藥量日何程何藥同何藥

同

以上幾味調合或ハ丸散トシ幾貼ニ分チ或ハ幾粒ヲ一包トナシ一度或ハ

一日ノ用量大人小兒ノ區別等其用法詳細

一主治功能詳細

右ハ從來發賣渡世仕來リ候或ハ此度新ニ調整發賣仕度奉存候間御檢査ノ

上御差支モ無御座候ハヽ免許鑑札御下渡被成下度依テ製劑相添此段奉願

候也

年　月　日

府縣華士族或ハ平民

大小區町村名番號

本人　姓　名　印

醫務取締或ハ區戸長

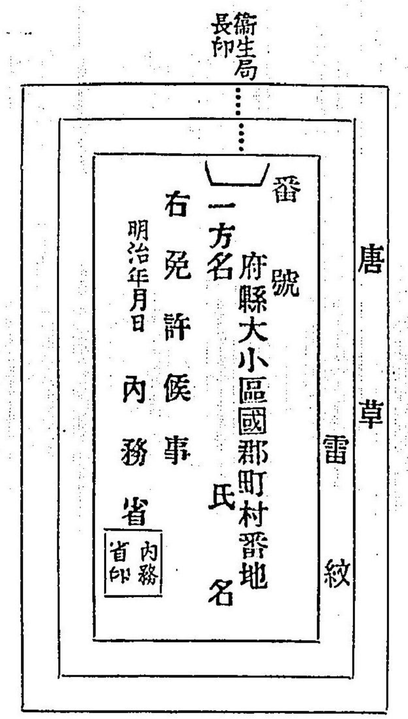




府縣長官姓名宛

賣藥營業鑑札雛形

銅版




姓　名　印

賣藥改正願書式

賣藥改正願

（用紙美濃紙）

一方名
藥品分量
製法
用法服量
功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々ノ廉左記ノ通改正仕度御差支無之候ハヽ鑑札御書換被成下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

（肩書前同斷）

營業人　氏　名

願人　氏　名印

區戸長醫務取締

氏　名印





府縣長官姓名宛

賣藥請賣鑑札願書式

（用紙同上）

賣藥請賣願

一方名　一同　一同　一同

右營業人府縣大小區國郡町村番地

族籍　氏　名

但營業者異ナレハ縱令一方タリトモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者ヘ御免許ノ御指令寫幷ニ約定書相添此段奉願候也

年　月　日

（肩書前同斷）

請賣願人族籍　氏　名印

府縣長官氏名宛

賣藥請賣約定書

一方名　一同　一同　一同

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受ケ營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致ス間敷候依テ約定書如件

年　月　日

（肩書前同斷）

賣藥營業人族籍　氏　名　印

同

賣藥請賣人族籍　氏　名　印

賣藥受賣鑑札雛形

（用紙西洋紙銅版摺）



衛生

表　衛生局長印

雷紋　唐草　雷紋

賣藥請賣許可之証

番號

一方名　一同　一同

一同　一同

右請賣營業聞屆候事　氏　名

明治年月日　内務省　内務省印

竪五寸壹分

横三寸六分

外雷紋　内唐草

裏

賣藥營業人　族籍　氏　名

賣藥受賣許可之証

賣藥營業人　族籍　氏　名

賣藥行商鑑札雛形　（用材檜）

表

賣藥行商許可之証
府縣族籍
賣藥營業何誰實子
苗字名
一何丸
一何丹
一何湯
一何膏
右行商聞届候事

堅三寸五分
厚三分
横二寸五分

裏

年月日……烙印
府縣廳印
番號

○縣甲第十一號　明治十四年一月二十日

賣藥營業願雛形等ノ儀ニ付明治十年四月縣甲第三十號ヲ以テ布達及置候處





尚轉籍鑑札書換幷ニ廢業届雛形別紙之通相定候條此旨相達候事

（移住鑑札書換願雛形）

移住ニ付賣藥鑑札書換願

何府縣何國何郡町村番地士族平民
營業人　何之誰

何年何月何日免許
一方名
一同
以下倣之
右ハ何府縣ニ於テ御免許ノ上營業罷在候處今般都合ニ依リ御管下何郡何町村番地ヘ（轉籍寄留）仕候間鑑札書換御渡被下度別紙鑑札相添奉願候也
年　月　日　右願人　何之誰印
其移住セシ處ノ衛生委員

何之誰印

同戸長

何之誰印

福島縣令何某殿

（他管下ヘ轉居届雛形）但管内甲郡ヨリ乙郡ニ轉スルモ此雛形ニ準スヘシ

轉居ニ付御届

何年何月日

一方名

一同

以下倣之

右ハ御免許ノ上營業罷在候今處何府縣國郡町村番地ヘ（轉籍寄留）ノ上營業仕候間此段御届仕候也

何國郡何町村番地士族平民



何之誰印

右町村衛生委員

何之誰印

同戸長

何之誰印

年月日

福島縣令何某殿

（廢業届雛形）

賣藥廢業御届

何年何月何日免許

一方名

但請賣及行商營業約定候者（別紙之通）或ハ（無之候）

一同

但同

以下倣之

右營業罷在候處今般何々（廢業スル事故ヲ明記スヘシ）ニ付廢業仕候間鑑札相添此段御届仕候也

何國郡何町村番地士族平民　何之誰印

右町村衛生委員　何之誰印

同戸長　何之誰印

福島縣令何某殿

（廢業届別紙雛形）

賣藥請賣及行商約定者人名調

何府縣何國郡町村番地士族平民





一方名　一同　一同　請賣營業者或ハ行商者　何之誰

一同　一同　同

以下倣之

右請賣行商候者取調候處相違無之候以上

年　月　日　賣藥營業者　何之誰印

○縣甲第二十四號　明治十四年三月三日

賣藥營業者發賣禁止ヲ受ケタルトキ其請賣及行商者ニ於テ藥品ヲ所持スル者ハ營業人同樣所轄郡役所ヲ經テ縣廳ヘ納付スヘシ此旨布達候事

○己第八號　明治十四年七月廿六日

郡役所　戸長役場　衛生委員事務取扱所

賣藥請賣者ニシテ其賣藥ヲ調製販賣候儀ハ曾テ無之筈ニ候得共或ハ發賣者藥方分量ヲ傳リ調製候者萬一有之候ハヽ改正賣藥規則第二十三條ノ罰則ニ該ルヘキモノニ候條速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候樣可取計此旨相達候事

○縣甲第九十七號

明治十四年七月廿六日

藥舗營業者取締及試驗規則別冊之通相定來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

藥舗營業者取締及試驗規則

第一章　取締規則

第一條　藥品ヲ賣買スル者ヲ分テ二種トス曰藥舗曰ク藥種商是ナリ

第二條　藥舗ハ醫師ノ處方箋ヲ以テ調劑販賣スルモノトシ藥種商ハ藥品ノ販賣ニ止ルモノトス

但藥舗ハ藥種商ヲ兼ヲ且藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ヲ小賣小買スルヲ得藥種商第二類第三類ノ藥品封緘ヲ開キテ小賣小買スルヲ得ス

第三條　自今新ニ藥舗ヲ開業セントスル者ハ明治十六年ヨリ第十八條ノ學科ヲ試驗シ其成蹟ヲ內務省ニ具狀シテ免狀ヲ交付スヘシ

但志願ノ者ハ期限內ト雖モ渾テ本條ニ準スヘシ

第四條　新ニ藥種商ヲ營業セントスル者ハ試驗ヲ要セス免許證ヲ付與スヘシ

第五條　自今免狀又ハ免許證所持ノ者ニアラサレハ營業スルヲ許サス

第六條　免狀幷免許證所持ノ者改姓名若クハ水火盜難ニ罹リ毀失スルトキハ其事實ヲ詳記シ郡役所ヲ經テ更ニ下渡ヲ願出ツヘシ

第七條　免狀所持ノ者他管或ハ他郡他町村ヘ轉籍寄留及ヒ他管或ハ他郡他町村ヨリ轉籍寄留スルトキハ郡役所ヲ經テ其旨屆出ヘシ

但免許證所持ノ者モ本文ニ準スト雖モ他管ヘ轉籍寄留スルトキニ限リ其證ヲ返納スヘシ

第八條　免狀幷免許證所持ノ者廢業若クハ死亡スルトキハ郡役所ヲ經テ其旨
届出免狀幷免許證等ヲ返納スヘシ

第九條　藥舖主若シ死亡シ尙其業ヲ營マント欲スル子弟ハ第三條ニ據リ試
驗ヲ要スト雖モ同業ノ者ヲ後見人トナシ業務ノ監督ヲ受ルトキハ滿一年間
其業ヲ營ムヲ得ヘシ

但一年ヲ經テ尙試驗ヲ經サル者ハ都テ藥種商タルヘシ

第十條　藥舖營業ノ者ハ明治十三年一月太政官第一號市告ヲ遵守スルハ勿
論第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ同布告第五條ニ照準シテ取扱フ
ヘシ

第十一條　藥舖ハ醫師ノ處方箋ヲ以テ調劑スルトキ第二類第三類ノ藥品配伍
ニ會シ分量過多或ハ禁忌ト認ムルトキハ之ヲ處方主ニ糾シ而シテ後之ヲ販
賣スヘシ

但處方箋ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ





第十二條　藥種商ハ縱令醫師ノ處方箋ヲ以テ藥劑ヲ請求スル者アリト雖モ
之ヲ調劑販賣スルヲ許サス

第十三條　洋藥ハ可成的司藥場ノ檢査印アル品ヲ購求シテ之ヲ販賣スヘシ

第十四條　毒藥劇藥ハ明治十三年一月太政官第一號布告第五條ニ準據シ其
名標ヲ貼付シ別ニ陳列所ヲ設ケ必ス他藥ト混スヘカラス

第十五條　渾テ藥品ハ舶來和製ノ別ナク其眞贋良否ヲ鑑別シ克ハサルトキハ
願ノ上之ヲ本縣醫學校ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示ニ從フヘシ

但無費ニテ試願ヲ受ルヿヲ得

第十六條　渾テ猛烈苛毒ノ藥品ヲ販賣スルトキハ極メテ其量目ニ注意シ毫モ
忽ニスヘカラス

但製煉及調劑ノ諸器械ハ使用ノ都度之ヲ洗拭シ彼是混入ナキヲ要トス
ヘシ

第十七條　藥舖ニシテ醫師兼業スルヲ許サス

## 第二章　試驗規則

第十八條　試驗科目左ノ如シ

第一　算術

第二　物理學

第三　化學

第四　藥物學

第五　製藥學

第六　處方及調劑學

第十九條　試驗ヲ請フ者ハ第一號第二號ノ書式ニ準據シ願出ヘシ

但年齡ハ滿二十年以上ノ者タルヘシ

第二十條　渾テ試驗ハ一學科毎ニ一二問乃至三問ヲ則トス順次應答筆記セシムヘシ

第廿一條　試驗答記ノ時間ハ毎問二時ヲ超ユルヲ許サス若シ此時間ニ答記シ得サル者ハ更ニ次ノ問題ヲ授クヘシ

但能ク其問題ノ理義ヲ解釋シテ僅ニ謄記ヲ卒ヘサル者ハ之ヲ斟酌シテ半時以內ノ猶豫ヲ與フルヿアルヘシ

第廿二條　受驗人ハ試驗場ニ書籍物具等ヲ携帶スルヲ許サス

第廿三條　受驗人ハ一問ノ答記了ラサル間ハ試場ヲ出ルヿヲ許サス

第廿四條　不合格ニシテ免狀ヲ付與セサル者ハ其指令ヲ受ケタル後六ケ月以上ヲ經ルニアラサレハ再試驗ヲ願フヲ得ス

第一號書式　（用紙美濃罫紙）

（藥種商）開業願　　私儀

今般藥種商開業仕度試驗ノ上（藥種商ハ此免狀）（藥種商ハ依テ以下相添ニ至ル七字ヲ除ク）免許商御下渡相成度依テ履歷書相添ヘ此段奉願候也

福島縣何郡町村番地士族平民

年　月　日　　姓　名　印

衛生委員　姓　名　印

戸長　姓　名　印

縣令姓名宛

第二號書式　（用紙同上）

履歴書

福島縣何國何郡町村番地士族平民

姓　名　印

年　齡

父祖或ハ何府縣何所藥舗何誰ニ從ヒ藥品取扱或ハ何府（縣醫學校公私立病院）ニ入學何年何々科修業何國何郡ニ於テ開業或ハ何職ヲ勤務云々其他官命ニ係ル一身ノ進退共逐次其條件ヲ記載スベシ

右之通相違無之候也

年　月　日

第三號書式　（用紙中奉書四ッ切）

第何號

福島縣士族平民

姓　名

年　齡

縣名ノ割印ヲ付ス

藥種商免許証

年月日

福　島　縣





○縣甲第百十八號　明治十四年九月廿二日

藥舗及藥種商營業ノ免許ヲ得タルモノハ左ノ雛形ノ通リ看板ヲ製シ戸外ニ

掲クヘシ此旨布達候事

但シ字体幷用板ハ勝手タルヘシ

第何號
官許藥舗
何國郡町村
何之誰

竪三尺五寸
きんとき

第何號
官許藥種商
何國郡町村
何之誰

寸法同上

○縣令甲第八十號　明治二十年五月十八日

藥舗及藥種商免許營業者ト雖モ藥品ヲ携帶シ行商候儀ハ相成サル義ニ候條右心得違ノモノ無之樣堅ク相心得ヘシ

○縣乙第七十五號　明治十四年十月十日　郡役所　戸長役場

先般縣甲第九十七號ヲ以テ藥舗營業者取締規則及布達候處從來藥品販賣營業者ハ中內務省免許無所持者ハ同則第三條ニ依リ免狀ヲ受ケサル間ハ同則第一號書式ニ據リ出願藥種商免許証ヲ受ケ藥品販賣候樣該營業者ヘ可相達此旨相達候事

○縣令甲第百二十號　明治二十年九月三十日

藥舗開業免狀ヲ得開業又ハ休業スルトキハ其旨本廳ヘ届出ヘシ

○縣令甲第六十六號　明治廿一年六月十五日

明治十年(四月)縣甲第三十號達中第六項行商鑑札表面記載方書式左ノ通リ改正ス

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之証
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者
氏
一方名　一方名
一方名　一方名　名
右行商聞屆候事

賣藥營業者賣子ヲ派出セシムル分

賣藥行商許可之証
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者氏名
賣子　氏
一方名　一方名
一方名　一方名　名
右行商聞屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之証

何縣府縣郡區町村族籍
賣藥營業人氏名
何縣府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業
氏名

一方名　一方名
一方名　一方名

右行商聞屆候事

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル者

賣藥行商許可之証

何縣府縣郡區町村族籍
賣藥營業人氏名
何縣府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業氏名
賣子　氏名

一方名　一方名
一方名　一方名

右行商聞屆候事

○訓令甲第三百十四號　明治二十年十一月二日　郡役所

明治十九年十一月勅令第七十二號ヲ以テ賣藥營業期限廢セラレ候處賣藥營業者廢業ノ節請賣行商者ニ於テ所持スル該營業者ノ賣藥ハ從前ノ通其廢業後六ケ月間販賣差許シ苦シカラス

○縣甲第七十七號　明治二十年五月六日

石炭酸其他ノ劇藥ヲ傳染病消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舗ニ於テ當分販賣差許候條望ノモノハ出願許可ヲ得ヘシ





但藥種商ト雖ヒ醫師ノ調合ヲ請ケ候分ハ本令ニ準シ許可スヘシ

○縣甲第百三十五號　明治十三年十二月十一日

家傳妙法ト唱ヒ自製ノ合藥ヲ衆庶ニ對シ施與候儀ハ不相成候條心得違無之樣可致此旨布達候事

但シ免許ヲ得タル賣藥ヲ相對施與スルハ此限リニアラス

○縣甲第百十六號　明治十三年十月廿七日

一般家畜類治病ニ用ユル藥劑ト雖モ能書等ヲ附シ廣ク販賣スルモノハ十年一月第七號公布ニ照準賣藥營業免許ヲ受クヘキ儀ニ付心得違無之樣可致此旨布達候事

（參考）

第七號　明治十年一月二十日

賣藥規則

第一章

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥煎藥等家方ヲ以

テ合劑シ販賣スルモノヲ云フ

第二條　此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ內務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　內務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ飾サヽルヘシ

## ○乙第百八號　明治十八年十月一日

### 雜藥販賣取締規則

第一條　此規則ニ稱スル雜藥トハ防臭及飲食物ノ防腐鼠取蠅虱蚤蚊等驅除ノ目的ヲ以テ調製シタルモノヲ云フ

第二條　免許証所持ノ者ニアラサレハ雜藥販賣スルヲ許サス

第三條　雜藥ヲ製造販賣セント欲スル者ハ方名藥味分量製法用量効能ヲ詳記シタル第一號書式ノ願書ニ藥品（現品製造品）相添ヘ免許ノ証ヲ受クヘシ





第四條　前條願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品取扱上失誤ヲ生シ易キモノハ一切之ヲ許サス

第五條　免許ノ藥劑ト雖ヒ其藥味分量製法用法用量功能ヲ改正セント欲スルトキハ第二號書式ノ願書ニ藥品（現品製造品）ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ

但方名ヲ改正セントスルトキハ舊免許証ヲ返納シ更ニ免許証ヲ受クヘシ

第六條　雜藥ヲ請賣セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ製造人所持ノ免許証寫ヲ添ヘ請賣免許証ヲ受クヘシ

但他管下ノ者ヨリ請賣セント欲スル者ハ本文ニ準スヘシト雖ヒ其証ナキ者ハ第三條ノ手續ニ依ルヘシ

第七條　製造人又ハ請賣人ニ於テ自ラ行商シ或ハ賣子ヲシテ行商ヲ爲サシメント欲スル者ハ更ニ行商免許証ヲ願受ケ行商ノ際ハ之ヲ携帶スヘシ

第八條　免許ノ雜藥ト雖ヒ有害品ナルヲ更ニ發見スルトキハ直ニ發賣ヲ禁止スルヿアルヘシ

第九條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽトキハ其請賣者及賣子共其販賣ヲ許サス

但此場合ニ於テハ營業者ハ勿論其請賣者及行商ニ於テモ總テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十條　免許証ハ賣買貸渡讓與スルヲ許サス

第十一條　廢業或ハ他管下ヘ轉籍寄留セントスルトキハ免許証ヲ返納スヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ製造人ハ請賣行商請賣者ハ行商者ノ住所姓名ヲ記載シ届出ツヘシ尤モ無之節ハ其旨届出ツヘシ

第十二條　相續人ニ於テ營業ヲ繼續セントスル者ハ其旨願出免許証書換ヲ請フヘシ

第十三條　免許証ヲ遺失毀損スルカ又ハ他町村ニ轉居或ハ改姓名ヲナシタルトキハ其事由ヲ記シ免許証下付又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第十四條　此規則第二條第五條第六條第七條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ





第一號書式

雜藥檢査願

一方名

藥味　分量

製法　用法

用量

功能

右雜藥販賣仕度候間御檢査ノ上免許証御下渡被成下度藥品相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

何郡何町村番地住居族籍

氏　名　印

戸長　氏　名　印

縣令宛

第二號書式

雜藥改正願

一方名

藥味　分量

製法　用法

用量

功能

右明治何年何月何日御檢査免許証御下渡營業仕居候處今般藥味分量製法用法用量功能左ノ通改正仕度候間御許可被成下度依テ藥品相添此段奉願候也

藥味　分量　製法　用法　用量　功能

（署名書式第一號式ニ同ジ）

第三號書式

雜藥請賣行商願

一方名　一方名

何府縣何郡町村番地族籍

右雜藥發賣者　氏　名

一方名

（肩書同上）

右雜藥發賣者　氏　名

右雜藥何方請賣行商仕度依テ別紙雜藥發賣者所持ノ免許狀寫相添此段奉願候也

何郡町村番地族籍

年　月　日

氏　名　印

戸長　氏　名　印

縣令宛

○訓令甲第百三十號

明治二十年四月五日

郡役所

雜藥請賣行商許可候節ハ左之雛形ニ準據シ鑑札ヲ下付シ右異動ハ明治十三年十二月戊衛第百三十號達ニ據リ屆出ツヘシ

表

番號　縣國郡町村番地族

一方名　一方名　何　某

一方名　一方名

右雜藥請賣行商免許候事

年　月　日　何郡役所

用紙ハ適宜　鑑札一枚四方以上記載スヘカラス

裏

一方名　縣國郡町村番地族

營業人　何　某

營業者異ナルモノハ一々方名及族籍姓名ヲ記スヘシ





○訓令甲第三百一號　明治二十年十月十二日

賣藥及雜藥請賣行商許可廢業左ノ表式ニ照準本年分ヨリ取調每年一月卅一日限リ本廳ニ差出ヘシ

但十三年戊衛第百二十二號及同年戊衛第百三十號達ハ廢止ス

賣藥及雜藥請賣行商表　（明治　年）　廳　名

| 種別 | 賣藥 | | | 雜藥 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 請賣行商人員 | | | 請賣行商人員 | | |
| | 方數 | 人員 | 方數 | 方數 | 人員 | 方數 |
| 前年末現在 | | | | | | |
| 本年內許可 | | | | | | |
| 本年內廢業 | | | | | | |
| 本年末現在 | | | | | | |

○乙第百三十四號　　明治十六年十二月四日

明治十四年(二月)縣甲第二十三號製藥者免許手續別紙ノ通改正候條此旨布達候事

## 製藥規則

第一條　凡藥品ヲ製煉セントスル者ハ都テ藥品ヲ添ヘ願書式ニ照準シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ツヘシ

第二條　試驗ノ上良品ナルモノハ內務省免許鑑札ヲ交付スヘシ

第三條　試驗ノ上若シ其製造充分ナラサルモノハ本人ノ志願ニ依リ衛生局試驗所ニ於テ製煉方法ヲ傳示スルヿアルヘシ

第四條　製藥ノ許可ヲ受ケタル者ハ官許ノ文字ヲ冒シタル票紙ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼用シ販賣スヘシ

但藥名ハ國字洋文兩樣トモ記載スヘシ決シテ洋文ノミヲ書スヘカラス

第五條　他管ニ於テ製造免許ヲ受ケタル者當管內ニ轉籍寄留ノ上營業セントスル者ハ免許鑑札ノ寫相添ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第六條　水火盜難ニ罹リ免許鑑札ヲ毀失スルカ又ハ改姓名セシ片ハ其旨詳記シ役郡所ヲ經テ更ニ鑑札書替ヲ縣廳ヘ願出ツヘシ

第七條　製造人死亡或ハ廢業スル片ハ速ニ免許鑑札ヲ返納シ他ニ轉籍寄留スル者ハ管內外ヲ問ハス其旨郡役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第八條　製藥ノ免許ヲ受ケタルモノハ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ

三尺

鑑札番號

官許何々藥製造所

何某何國何郡何町村番地
族籍　姓名

六寸四方

願書式

製藥營業願

一藥名何々
（製煉方法ヲ詳細ニ記載スヘシ）
右藥品製造營業仕度候間御試驗之上御差問無之候ハヽ御免許被成下度製品
相添此段奉願候也

年　月　日

何縣何國何郡町村番地族籍
何之誰
右町村衛生委員
何之誰
右町村戸長
何之誰

縣令宛

○甲第六十五號

一賣藥檢査願

明治廿二年五月廿八日

一雜藥檢査願





一鍼治及灸治營業願
一產婆營業免狀下渡願
右出願免許ノモノハ自今指令書ヲ付與セス免許証ノミ下付ス
○告示第二百三十號
明治廿二年八月卅一日

一賣藥營業鑑札
一免許請賣鑑札
一賣藥行商鑑札
一雜藥營業免許証
一雜藥請賣鑑札
一雜藥行商鑑札
一藥種商免許証
一產婆營業及免許証
一鍼治及灸治營業証
一藥種商開業願

一凍氷檢査証
一凍氷行商鑑札
一獸類屠殺場及獸肉販賣免許証
一獸肉行商鑑札
一入齒、齒拔、口中療治、接骨營業証
一藥用阿片特許藥舖免許証
右鑑札免許証ノ遺失紛失盜難又ハ携帶失踪等ノ節ハ其都度告示シ來リ候處今後ハ右告示ヲ爲サス候條他人ノモノヲ拾取又ハ之ヲ所持スルモノヲ見聞シタルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡査駐在所ヘ屆出ツヘシ

○訓令甲第九十四號

明治廿二年五月十八日　郡役所

衛生表左式ノ通リ相定メ候條右ニ照準每年調製翌年一月盡日限リ差出スヘシ

但本年分ヨリ此表式ニ準シ調製スヘシ





年　報

死亡者年齡區別表

（明治　年）　郡名

| 年齡 | 男 | 女 | 第一類 傳染病 | 第二類 發育及營養的病 | 第三類 皮膚及筋病 | 第四類 骨關及筋病 | 第五類 血行器病 | 第六類 神經及呼吸器病 | 第七類 消化器病 | 第八類 泌尿及生殖器病 | 第九類 外傷及變性 | 第十類 中毒症 | 第十一類 原因不詳 | 第十二類 合計 | 第七類ノ內 肺病 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 三年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 四年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 五年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 六年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 七年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 八年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十一年 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年齡不詳 | | | | | | | | | | | | | | | |

一死亡者ハ其埋(火)葬認許証ヲ附與シタル土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ但在監死亡者ハ記入ニ及ハス

一死亡者病類ノ細目ハ明治十八年五月丙第四十二號達ニ據ルヘシ

一死體ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載スヘシ

一一年ノ項ニハ滿一年マテ二年ノ項ニハ一年一月以上滿二年マテノ者ヲ記入スヘシ以下諸項皆同シ

一一郡一表ヲ調製スヘシ

死亡者月別表　(明治　年)　郡名

| 月別 | | 第一類 傳染病 | 第二類 發疹及性病 | 第三類 營養及消化器病 | 第四類 骨關及筋病 | 第五類 血行器病 | 第六類 神經及精神病 | 第七類 呼吸器病 | 第八類 消化器病 | 第九類 泌尿及生殖器病 | 第十類 外傷及性變死 | 第十一類 中毒症 | 第十二類 原因不詳 | 合計 | 第七類ノ内 肺病 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一月 | 男 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 女 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | |





年　報

| | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 善感 | | | | | | | | | | | | |
| 區別 | 滿一年マテ | 一年以上滿二年迄 | 二年以上滿五年迄 | 五年以上滿十年迄 | 十年以上滿十五年迄 | 十五年以上 | 合計 | | | | | |

種痘明細表　(明治　年)　郡名

一製表及記入方ハ死亡年齢區別表ニ依ルヘシ

年報

| 初種 不善感（疾病事故ニテ種痘セサルモノ） | 再種 〃〃〃 | 三種 〃〃〃 | 合計 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| …… | …… | …… | |

一種痘規則第三條ニ依リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ

一郡一表ヲ調製スヘシ

一福島、二本松、若松、白河四市街ニ於テハ本表ニ照準シ特ニ一表ヲ製シ本表ト共ニ差出スヘシ

一一年以上滿二年マテノ欄ニハ一年一月以上滿二年マテ二年以上滿五年マテノ欄ニハ二年一月以上滿五年マテノ者ヲ記入スヘシ以下諸欄皆同シ

## 娼妓梅毒檢査表

（明治　年）　郡　名

| 檢査地名 | 娼妓一日平均人員 | 梅毒檢査總數 | 眞性患者 | 假性患者 | 不患者 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

一娼妓一日平均人員ハ一ケ年間毎月末ノ現在數ヲ以テ平均スヘシ

一檢査總數ハ一ケ年間檢査シタル員數ニシテ例ヘハ一人ノ娼妓毎月四回檢査ヲ受クルトキハ即チ一ケ年間四十八人ト算スルカ如シ

一眞性患者假性患者不患者ノ三欄ヘハ上欄ノ梅毒檢査總數ノ內譯計算スヘシ

一一郡一表ヲ調製スヘシ

何郡公私立病院表ノ一　（明治　年）　郡　名

年報

| 種別 | 院名 | 所在地名 | 治療ノ目的 | 職別 | 人員 | 十二月末月俸 | 看病人 男 | 看病人 女 | 看病人 計 | 患者 入院 | 患者 外來 | 患者 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 公立 | 何病院 | 何郡何町村 | | 院長 醫員 藥局員 事務係 會計 | | | | | | | | |
| 私立 | 何病院 | 何郡何町村 | | 〃 〃 〃 〃 | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | |

一本表職員及看病人ハ十二月卅一日ノ現在トス

何郡公私立病院表ノ二（明治　年）郡名

| 種別 | 院名 | 定額金 | 雜收入 | 寄附金 | 合計 | 支出金額 | 積立金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 公立 | 何病院 | 円 銭 厘 | 円 銭 厘 | 円 銭 厘 | 円 銭 厘 | 円 銭 厘 | 円 銭 厘 |
| 私立 | 何病院 | | | | | | |

一本表ハ會計年度ニ依ル

公私立何病院施治患者表（明治　年）郡名

| 月次 | | 第一類 傳染病 | 第二類 發育及營養的病 | 第三類 皮膚及筋病 | 第四類 骨及關節病 | 第五類 血行器病 | 第六類 神經系及五官病 | 第七類 呼吸器病 | 第八類 消化器病 | 第九類 泌尿及生殖器病 | 第十類 外傷性變死 | 第十一類 中毒症 | 第十二類 原因不詳 | 合計 | 死亡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一月 | 男 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 女 | | | | | | | | | | | | | | |
| 二月 | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |
| 三月 | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |
| 四月 | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〃 | | | | | | | | | | | | | | |

○番外　明治十三年十月二十日　郡役所　戸長役場　衛生委員

傳染病豫防心得書別冊之通内務省ヨリ達相成候條各自注意豫防方行届候樣可致此旨相達候事

乙第三十六號　明治十三年九月十日　東京警視本署　府縣

本年第三十四號傳染病豫防規則布告相成候ニ付傳染病豫防心得書別冊相達候條各地方廳ニ於テ時宜ヲ量リ節略論達シ實際上豫防行届候樣取計フヘシ此旨相達候事

## 傳染病豫防心得書

凡ソ傳染病ハ其種類多シト雖モ流行性傳染病ノ一旦萌動シテ其蔓延ノ熾ナルニ至テハ救療ノ法モ洽ク及ヒ難ク終ニ其猖獗ヲ縱ニシ慘酷ヲ極ムルニ至ル然ルニ豫防法アリテ之ヲ守ル嚴ナルトキハ其病害ヲ未熾ニ防遏スヘシ加之消毒法アリテ之ヲ行フ密ナルトキハ各種ノ病毒ヲ消滅スルヲ得ヘシ消毒法ハ即チ豫防法ノ一種ニシテ殊ニ其効驗確實ナルモノナリ自今本邦



何郡地方病患者表　（明治　年）　郡名

| 病名 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 合計 | 死亡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 脚氣 | | | | | | | | | | | | | | |
| 間歇熱 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | |

| | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

流行傳染病中最モ豫防注意ヲ要スヘキハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布垤利亞、發疹窒扶私、痘瘡ノ六病トス而シテ各種ノ病症ニ從ヒ豫防ノ法モ亦其趣ヲ異ニスト雖ヒ其要領ハ之ヲ約スルニ四項ニ出テス其一ハ病毒ノ萌動及蔓延ノ因ヲ除却スルニアリ(即チ攝生法)其二ハ各人體中有スル所ノ感受性ナカラシムルニアリ(即チ清潔法)其三ハ病毒傳播ノ媒介ヲ隔離スルニアリ(即チ隔離法)其四ハ傳染病毒ヲ消滅スルニアリ(即チ消毒法)右ノ四項ニ依リ豫防ノ事ヲ施サヽルヘカラス故ニ其大意ヲ示スヿ左ノ如シ

清潔法大意

流行性傳染病毒ノ眞性ハ確知シ難シト雖ヒ病理家ノ論斷ニ據ルニ乙微ノ有機物アリテ外方ヨリ人體ニ竄入シ以テ其病ヲ發スルモノアルカ如ク蓋シ此毒物ハ多ク地中及ヒ水中ニ在テ萌動シ尋テ氣中ニ混シ然ル後人體ニ入ルヲ得ルモノトス故ニ其病ニ罹ル者ノ排泄物地中若クハ水中ニ滲入スルトキハ即チ其毒ヲ散漫シ其地方ニ於テ衆人一齊ニ同一ノ病ヲ發スルヿ理





ニ於テ疑フヘカラサルナリ

此有機性病毒ハ地中或ハ水中氣中ニ生殖ヲナスニ必ス助養物ナカルヘカラス而テ其助養物タル凡百ノ有機物體ノ腐敗ニ向ハントスル者之カ發生ヲ助クル者ニ似タリ夫ノ魚市屠場等不潔ノ地及糞尿塵芥ノ堆積セル地ノ如キハ其腐敗物地中及ヒ水中ニ滲透シ又此ヨリ蒸發スルモノ大氣中ニ混入スルヲ以テ病毒ノ助養物甚タ多クシテ忽チ蕃殖ノ速ナルヲ致ス故ニ土地ノ不潔ハ傳染病ヲ蔓延セシムルノ媒介タリ是ヲ以テ其病發生スルトキハ必ス家屋ヲ清潔ニシ溝渠、芥溜、厠圊等ノ汚物ヲ掃除セサルヘカラス是レ清潔法ヲ要スル所以ナリ

攝生法大意

凡ソ人強健ナルトキハ病毒ノ侵襲ヲ拒クヘキノ機能ヲ有スト雖ヒ過度ニ勞動シ及ヒ飲食物ノ不良或ハ不足等ヲ以テ身体之レカ爲メニ衰弱スルトキハ病毒ノ侵襲ヲ受クルヿ最モ甚シトス彼ノ發疹窒扶私ノ飢饉軍役ノ際ニ乘

シ其猖獗ヲ逞フシ又平生飲食不節或ハ不良ニシテ腸胃之カ爲メニ些少ノ損害アルトキハ虎列刺ノ侵襲ヲ受ルカ如キ等ヲ以テ證スヘシ其餘精神非常ノ感動及ヒ感冒等モ亦能ク病毒ヲ招クノ媒介トナルモノナリ故ニ流行ノ際ニ當テハ殊ニ攝生ノ法ヲ嚴守シ病毒侵入ノ地ナカラシムルヲ專要トス若シ人々普ク是ノ豫防法ノ要訣ヲ守リ得ルニ至ラハ全ク傳染病ヲシテ流行蔓延ノ甚シキニ至ラシメサルヘシ是レ攝生法ヲ要スル所以ナリ

隔離法大意

傳染病毒ハ啻ニ地中若クハ水中ニ含リテ傳播スルノミナラス患者ノ排泄物呼氣蒸發氣等ヨリ直ニ感染スルコアリ故ニ病體死體其排泄物等ハ速ニ之ヲ隔離シテ觸接ノ憂ナカラシムヘシ隔離法トハ患者ヲ別室ニ移シ門戸ニ病名票ヲ貼附シテ外人ニ表示シ或ハ之ヲ避病院ニ送致シ要用アル人ノ外務メテ交通ヲ絶ツ等ノ事是レナリ殊ニ其恐ルヘキ傳染病ニ於テハ患者ニ接近シタル看護人等モ亦他ノ健康人ト隔離セサルヲ得ス苟モ能ク其法





ヲ守リ病毒ニ遠サカルヲ得ハ必ラス傳染ノ蔓延ヲ致サヽルヘシ是レ隔離法ヲ要スル所以ナリ

清毒法大意

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ微ニシテ見ルヘカラスト雖モ傳送物中ニ混入シテ人體ニ達シ其病症ヲ發現スルモノトス此傳送物ヲ滅スルトキハ即チ病毒モ亦消盡ス故ニ烈火ヲ用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良トス然レトモ其燒棄ニ付シ難キモノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ薫蒸若クハ灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラサレハ其病毒散蔓シテ終ニ消滅スルヿナカラン故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消毒ヲ以テ豫防法中ノ最モ緊要ナルモノトス

消毒法ヲ施スニ當テ其病性ト其施スヘキ物トニヨリ其科ヲ同クセス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等消毒法、第二死體及ヒ排泄物等消毒法、第三衣服臥具等消毒法、第四家屋船舶等消毒法、第五什具運搬器等消毒法、第

六廁溷溝渠等消毒法トス但實布垤利亞、發疹窒扶私、痘瘡ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス

凡ソ病毒ノ最モ含藏シ易キモノ即チ毛布、綿布、綿絮、疊蓆、敷物ノ如キ氣孔粗疎ナルモノト居室及ヒ室内諸器具ノ如キハ其病毒浸染ノ深淺ニヨリ消毒ヲ行フヘキ者トス

右ニ載タル蒸蒸及ヒ洗滌ノ外其燒却ヲ憚ル品物ニシテ浸染セル病毒ノ萌生機能ヲ消滅セシメント欲スルトキハ熱氣消毒竈ナルモノヲ用ヒテ華氏二百二十度ヨリ二百五十度ニ至ルノ熱氣ヲ洽ク四方ヨリ通セシメ以テ之ヲ六殲滅スル法アリ然レモ其構造宏大ニシテ各地ニ設ケ難キヲ以テ茲ニ詳記セス且ツ大氣日光ノ如キモ自然消毒ノ効アルモノニシテ善ク微隙ニ達スト雖モ但タ其力藥品ニ比スレハ甚タ弱キヲ以テ多少時日ヲ經サレハ其効ヲ奏シ難シトス

消毒藥劑ハ其品類頗ル多ク且ツ其性質功能モ亦同一ナラス故ニ其功能ヲ





類別シテ第一號ヨリ第十二號ニ至ル以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス其功用ノ如キハ化學作用ニ渉ルヲ以テ之ヲ略ス

消毒藥

第一　濃厚石炭酸水　結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但石炭酸一分ニ虞利斯林又ハ亞爾箇保兒二分ヲ和シテ能ク溶解シ後ヲ本量ノ水ヲ加フヘシ

第二　稀薄石炭酸水　結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但溶解法前ニ同シ

第三　石炭酸蒸氣　結晶石炭酸（或ハ之ニ二倍ノ亞的兒ヲ加ヘタルモノ）ヲ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシメ或ハ石炭酸一分ニ餾水二十分ヲ和シ布片ニ蘸シ室内ニ懸ケ置キ蒸發セシムヘシ

第四　石炭酸末　粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ濕潤セシメ、タルモノ

但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノ「フエニール」酸（即チ結晶石炭酸）ヲ含ミ稍々色ヲ帶ヒタル流動石炭酸ナリ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸（三百倍ノ水ニ溶解ス）テール油。石炭酸石灰（石灰百分石炭酸三分）

第五　硫酸鐵合劑　綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加ヘタルモノ

但此合劑ハ久シク貯フヘカラス用ニ臨ミテ調製スヘシ

第六　硫酸硫酸鐵合劑　硫酸五分硫酸鐵六分水八十九分ヲ和シタルモノ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

鹽化亞鉛（八倍ノ水ニ溶解セルモノ）。明礬（粗製明礬）ノ過量ヲ水中ニ投シ能ク攪拌シテ後其上清ヲ取ル。コロール明礬（四倍ノ水ニ溶解ス）。皓礬（百二十倍ノ水ニ溶解シ）



第七　木炭（木炭二分生石灰二十分）

第八　石灰　其他木灰、鋸屑、土等ハ又多少收結ノ功アルモノトス

第九　亞硫酸瓦斯　硫黃ヲ燒テ瓦解ヲ發生セシム其法八疊敷ノ室ニ硫黃大約三百匁（木炭末大約十匁ヲ加フル時ハ更ニ宜シ）ヲ要ス但一時ニ火焰昇騰スル恐アルヲ以テ二三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々ニ焚燒セシムヘシ

但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室（土藏ノ類）ニ索ヲ張リ消毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ或ハ竹架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫黃ヲ薫スヘシ又人々各自衣服等消毒スルニハ一握ノ粗製硫黃ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服ヲ被ラセ薫蒸スヘシ

第十　亞硫酸溶液　（甲）強百分ノ十ヲ含ムモノ　（乙）弱百分ノ五ヲ含ムモノ

但製法ハ略ス

第十一　過滿俺酸加里溶液（百倍ノ水ニ溶解ス）

第十二　コロール瓦斯　十分ノ食鹽ヲ五分ノ褐石末ニ密和シテ磁皿上ニ置キ十分ノ硫酸ヲ十分ノ水ニ混和シタルモノヲ注キテ之ヲ發生セシム

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

亞硝酸瓦斯　磁皿ニ銅屑ヲ盛リ置キ硝酸ニ少許ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ徐々ニ之ヲ注キテ瓦斯ヲ發生セシム○コロール石灰溶液　コロール石灰一分ヲ水百分ニ溶解ス○硝酸　磁皿ニ盛リ微火ニ上セ蒸發セシム

○

以下六病各四項ノ區別ニ因リ豫防法實施ノ事ヲ類別開示ス而シテ其手續ハ各項自カラ連帶シテ唇齒相保ツモノトス故ニ一事ニシテ其項ヲ同クセサルモノアリ例ヘハ虎列刺病ヲ豫防スルニ先ツ厠圊ノ掃除ヲ要スルハ清潔法ニ屬シ其患者ヲ尋常ノ厠ニ上ラシメス吐瀉物ヲ遠隔ノ地ニ運搬セシムルハ隔離法ニ屬シ其之ヲ運搬セシムル前ニ消毒ヲ行フハ消毒法ニ屬ス





其事ハ一途ニシテ前半ハ隔離法中ニ載セ後半ハ消毒法中ニ載スルカ如シ此心得書ニヨリ實施スル者宜シク相對照シテ其順序ヲ誤ル勿レ

## 虎列刺

虎列刺ハ特異ノ流行性傳染病ニシテ其病毒ハ病者ノ吐瀉物中ニアリ然シテ其吐瀉物ノ泡釀ニ向ントスルヒ最モ傳播ノ媒介ヲナスヿ甚シトス故ニ此病毒一回不潔汚穢ノ地中水中ニ入ルヒハ更ニ其蕃殖ノ力ヲ加ヘ動モスレハ飲料水ニ混シ遂ニ人體中ニ入リテ發生ス其症タル暴カニ吐瀉シ生力忽チ沈衰シテ而テ斃ル傳染病中最モ急劇ナル者ト謂フヘシ印度地方ニ於テハ每歲發動シテ地方病トナルト雖ヒ人民ノ交通ニヨリ四方ニ蔓延シ到ル所或ハ三四年間流行シ或ハ全ク其痕跡ヲ絕スシテ散發スルヿアリ總テ此病毒ハ夏月溫熱ノ候ニ當リ其發動ヲ見ル者トス眞症及類似症ノ二種アリト雖ヒ俱ニ傳染スル者ナリ故ニ其豫防ニ至テハ同樣ノ注意ヲ要スヘシ

### 第一項　清潔法

第一條　虎列刺病ノ吐瀉物ハ一滴ダモ汚穢ノ地ニ滲入セシムヘカラス若シ滲入スル時ハ其泡釀力ヲ助ケ忽チ蕃滋增殖スルモノナリ故ニ土地ヲシテ不潔ナラシムヘキ芥溜、下水、廁圊、魚市、屠場等ハ常ニ之ヲ掃除スヘシ其掃除スル毎ニ防臭藥即コロール石灰、明礬強溶液、テールガ油等ヲ適宜ニ撒注スルヲ良トス

第二條　虎列刺病毒ハ容易ニ水土ニ滲入シテ傳搬スルカ故ニ常ニ飲料水ニ注意ヲ加ヘ井戸側及ヒ敷石若クハ敷板ヲ堅牢緻密ニシテ傍地水漬ノ滲透ヲ防クヘシ其他飲料ニ供スル河水及ヒ水道ノ源ハ汚穢物ノ流入ヲ防クヘシ

第三條　虎列刺ノ病毒ハ排泄物ニヨリ傳播スルヲ以テ糞壺若クハ桶ヲ堅牢ニスヘシ且ツ常ニ注意シ糞尿ヲ汲取リテ之ヲ充滿セシムヘカラス殊ニ衆人群集スル所ノ廁圊又井戸水若クハ水道近傍ノ廁圊ノ如キハ最モ注意ヲ加フヘシ



第四條　糞壺若クハ桶等ニ罅隙アルキハ糞汁之レヨリ滲漏シテ忽チ病毒ヲ地中ニ滋蔓セシム此ノ如キモノハ消毒藥ヲ施スモ其功ヲ奏スル能ハス故ニ豫メ壺桶ヲ點檢シ罅隙アルモノハ之ヲ改良スヘシ

第五條　芥溜ハ雨水滲入スルニヨリ其汚穢ヲ廣ク地中ニ浸漫セシムルヲ以テ木箱或ハ鉄葉箱等ヲ以テ其貯器トナシ板蓋等ヲ設ケ雨水ヲ禦キ且ツ塵芥ヲ堆積セシムヘカラス

第六條　下水溝渠ハ石若クハ堅質ノ木材ヲ用テ有底ノ放水樋ヲ設ケ遠隔ノ地ニ流注セシメ汚水ノ地底ニ滲入スルヲ防クヘシ其樋上ハ蓋ヲ以テ密閉スヘシ若シ其接合密ナラサレハ却テ其間ニ腐敗氣ヲ停蓄スルカ故ニ此ノ如キモノハ寧ロ上面ヲ開放シテ大氣ニ曝ス以テ愈レリトス

但塵芥ハ必ス溝渠ニ投棄セシムヘカラス

第七條　溝渠ハ注意シテ塵芥ヲ除キ淤泥ヲ浚フヘシ且ツ其泥芥ハ搆側ヲ留置カスシテ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ然レトモ炎熱ノ候ニ當テ日中ニ

泥芥ヲ攪動スレハ惡臭ヲ發シテ空氣ヲ汚濁スルノ恐アルニヨリ必ス他ノ時候ニ於テ之ヲ浚除スヘシ

第八條　魚市屠場ニ於テハ其流出スル所ノ汚水地中ニ滲入スルノ恐アルヲ以テ第六條ニ同シキ放水樋ヲ設ケ流注セシムヘシ且屠屑、腥汁ヲ培料ニ供スルカ爲メニ久ク貯積スヘカラス必ス有蓋ノ箱若クハ桶ニ入レ置キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其他牛馬ノ廐舍及ヒ羊豚、鷄鶩ノ畜場等モ亦此旨意ヲ以テ掃除スヘシ

第九條　人家稠密ノ場所ニ於テハ培料ノ置場ヲ設クヘカラス若シ止ムヲ得スシテ設クルトキハ久シク堆積セシムヘカラス前條ノ旨意ヲ以テ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其汚汁滲入スルモノハ更ニ新土ヲ以テ之ヲ覆フヘシ但村落廣闊ノ地ニ於テハ必スシモ之ヲ要セス

第十條　學校、囚獄、製造所、旅店、劇場等ハ流行ノ際更ニ清潔法ニ注意シ又避病院ニハ掃除專務ノ人夫ヲ設ケ殊ニ注意ヲ加フヘシ





## 第二項　攝生法

第十一條　虎列刺病ハ各人皆之ニ感スルノ素因アルニ似タリト雖モ就中不攝生ノ人之ニ感スル最多シトス故ニ流行ノ際ハ殊ニ飲食ヲ愼ミ其他不攝生ノ事ヲ戒ムルヲ以テ至要トス

第十二條　飲料水ハ必ス無色無味無臭ノモノヲ撰ヒテ之ヲ用フヘシ若シ止ムヲ得ス其稍不良ノ疑アルモノヲ用フルトキハ之ヲ濾過スヘシ然レトモ煮沸ノ後之ヲ用フルノ最良ナルニ如カス蓋シ病毒ハ必微ニシテ濾過力ヲ以テ盡ク之ヲ除キ去ルヘカラスト雖モ之ヲ煮沸スルトキハ其分ヲ全ク殲滅スルノ効アリトス

第十三條　氷及冷水ハ縱令其質不良ナラサルモ之ヲ過度ニ飲用スルトキハ之レカ爲メニ下痢ヲ發スルモノナリ故ニ流行ノ際ハ過量ノ飲用ヲ戒ムヘシ但不良ナリト認ムルモノハ決シテ之ヲ用フヘカラス

第十四條　酒ノ清醇ナルモノハ之ヲ適度ニ用フレハ害ナシト雖モ暴飲或

ハ酸敗セルモノヲ用フレハ腸胃ヲ害シ或ハ下痢ヲ發スルモノナレハ流行ノ際ハ必ス其品種ヲ擇ヒ務メテ飲量ヲ節減スルヲ良トス

第十五條　食物ハ新鮮ノ肉類消化シ易キ蔬菜ヲ用ヒ平生ノ慣用ヲ改メサルヲ良トス但良好ノ食物ト雖モ之ヲ過食スレハ亦腸胃ヲ害シ此病ニ感シ易キカ故ニ流行ノ際ハ務メテ適度ニ食シ不消化物ヲ避ケ殊ニ不熟ノ果實ヲ食フヘカラス

第十六條　雨濕或ハ夜氣ニ冒觸シ或ハ過度勞役等皆此病ニ感シ易キヲ以テ流行ノ際ニハ殊ニ之ヲ慎ムヘシ

第十七條　流行ノ際ニ當テハ感冒下痢ヲ豫防センカ爲メ紋羽木綿等ニテ小腹ヲ卷キ務メテ適度ノ温暖ニ其身ヲ保持スルヲ良トス

第十八條　流行ノ際能ク此攝生法ヲ守リ腸胃健全ナルトキハ些少ノ病毒ヲ受クルモ猶モ其病害ヲ免ルヽヿナシトセス看護人及ヒ汚穢物死體等ニ直接スルモノヽ如キハ尤モ之ニ注意セサルヘカラス





第十九條　凡ソ豫防ハ平日攝生ノ謹嚴ナルヲ至要トス世間往々豫防藥ト稱スル方劑アリト雖モ多クハ無稽ノ考案ニ出テ之ヲ服用スルモ功ナキモノ多シトス

## 第三項　隔離法

第二十條　虎列刺病ハ患者ニ直接スルモ必スシモ感染スルノ理ナシト雖モ其吐瀉物ニ汚レタル患者ニ接シ又ハ其汚染セル物品等ニ觸ルヽトキハ其媒介ニ因リ病毒ヲ傳フ故ニ患者ト健者トヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ要法トス

第廿一條　虎列刺病ハ眞症ト類似トヲ論セス醫師診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第廿二條　患者ノ吐瀉物ハ之ヲ金屬製或ハ陶製ノ漱盥便器等ニ承ケ（木

製ノ器ハ其毒滲浸ノ恐アリトス）毎回消毒法ヲ施シ壺或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之レニ密蓋ヲナシ運搬夫ニ付シ人家遠隔ノ地ニ搬送セシメ溝渠、芥溜、田圃等ニ投棄スヘカラス且ツ患者ノ入リタル厠圃ハ決シテ他人ヲシテ入ラシムヘカラス又初發嘔吐セシ地面等ノ處置ハ第八十一條消毒法ニ依ルヘシ

但吐瀉物等ヲ運搬スルトキ日中ハ虎列刺吐瀉物ト表記アル號旗ヲ夜中ハ之ニ換ルニ提燈ヲ以テスヘシ

第廿三條　患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成丈ケ接近スヘカラス又止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶ツヘシ

但家人ニ要用アリテ來訪スル人アルトキハ成丈ケ戸外ニ於テ之レト應接シ屋内ニ入ラシムヘカラス此時ニ於テハ家人及ヒ來訪人ニ消毒法ヲ行フヲ要セス

第廿四條　家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外老幼ハ成丈ケ早ク他家ニ避退セシムヘシ

但看護人ハ成丈ケ其人ヲ更換セサルヲ良トス

第廿五條　病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス

第廿六條　患者若シ死亡スルトキハ成丈ケ其屍傍ニ接近シ又ハ死體ニ沐浴セシムル等ノヿヲセサルヲ良トス

第廿七條　患者治癒若クハ死亡シ病室ニ消毒法ヲ行ヒシ後ハ家人其室内ニ起臥スルモ妨ケナシト雖ヒ若シ之ヲ用ヒサルモ日用ニ差支ナキ家ニ於テハ數日間空室ノマヽ窓戸ヲ開放シ大氣ヲ流通セシムヘシ

第廿八條　西洋形船舶航海中ニテ發病者アルトキハ其室ヲ異ニスヘシ或ハ之ヲ艫ノ方ニ移スモ可ナリ其看護人ノ外交通ヲ絶ツヿ猶ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

第廿九條　船舶内ノ病室ニハ看護人ヲ定メテ吐瀉物ヲ承クルヿ第二十二條ノ如クシ航海中ニハ毎回海中ニ投棄スヘシ尤モ港灣河湖等ニ於テハ

之ヲ投棄スヘカラス必ス最寄ノ地方ニ着シ其地警察官吏或ハ衛生委員ノ指圖ヲ受クヘシ

第三十條　船舶ヨリ患者若クハ死者ノ届ケアルトキハ警察官吏衛生委員ニ於テ檢査ノ上患者ハ之ヲ隔離シ死者及ヒ汚穢物ハ消毒法ヲ行ヒ第五十四條ヨリ第五十八條マテニ依リ處置スヘシ

第卅一條　製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者幷ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キトキハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルトキハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第卅二條　避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ運搬ニ便ナル地ヲ撰フヘシ然レトモ井泉河流ノ近傍或ハ往來多キ路傍等ニ設クヘカラス又監獄、墓地、火葬場等ノ跡ハ用ヒサルヲ良トス

第卅三條　避病院ヲ新ニ構造スルトキハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ闊大ニシテ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニスヘシ但板葺苫葺等ハ其一時ノ便ニ任シテ可ナリ

第卅四條　避病院ノ廣狹ハ大約人口千人ニ患者一人ノ割合ヲ以テシ例ヘハ人口六千人ノ町村ナレハ患者六人分ニシテ每人二坪ト見積リ十二坪ノ病室ヲ要スルノ類ナリ尤モ流行ノ勢ニ因リテハ建坪ヲ增加スルヲ得ルノ餘地ヲ豫メ計畫シ置クヘシ

第卅五條　避病院ノ病室ハ重症輕症及ヒ快復期ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令ヒ患者輻湊ストモ一坪ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但其他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設クヘシ

第卅六條　避病院ニハ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ其構造ハ凡ソ一二坪許ノ小室ニシテ薰蒸氣ノ漏散セサル樣密閉シ得ヘカラシメ其内ニ竿ヲ架シ或ハ繩ヲ張リ衣服等ヲ掛ルニ便ニス其小ナルモノハ尋常ノ戸棚等ヲ以

テ之ニ當ツヘシ

第卅七條　避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ見舞人、看護人等外出ノ時々入浴ノ用ヒニ供スヘシ

第卅八條　避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親屬ノ弔者ノ容ルヽカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ

第卅九條　人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ設クルヲ要セス若シ相當ノ空屋等アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第四十條　普通病院ニハ決シテ虎列刺患者ヲ入ルヘカラス

但別ニ傳染病室ノ設アルモノハ此限ニアラス

第四十一條　避病院ニ用フル看護人ノ員數ハ重症ノ患者二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ晝夜交代セシムヘシ





但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成丈ケ其人ヲ交換セシメサルヲ良トス

第四十二條　避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンヿヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ

但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要シ且屢々更替スルヲ飭サヽルヘシ

第四十三條　避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者ハ其見舞ヲ許スヘシト雖トモ室內ニ於テ飲食ヲ嚴禁シ且ツ吐瀉物ニ接觸セサル樣切ニ注意スヘシ

第四十四條　避病院ニ在ル患者ノ病況危篤ニ至ルトキハ速ニ其家ニ通知シ若シ死亡スルトキハ入棺セル前ニ其死體ヲ家族ニ示スヘシ

第四十五條　流行ノ勢猛劇ニ及ヒ其他ノ群集事業ヲ差止ムルトキハ先ツ祭禮、劇場、寄席等ヲ差止メ止ムヲ得サル場合ニ至ラサレハ學校、製造所等ヲ差止ムヘカラス又社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヿヲ差止ムル

ヿアルヘシ

第四項　消毒法

第四十六條　虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ含レリ故ニ吐瀉物及ヒ之ニ汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ就中之ヲ燒滅スルヲ以テ最良法トス

患者及ヒ其死體ハ直チニ病毒ヲ傳フル者ニ非スト雖モ吐瀉物ニ汚染スルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ

第四十七條　消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一　患者及セ看護人等消毒法

第四十八條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用ヒテ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第四十九條　看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル





者ノ他人ト交通スルトキニハ必ラス沐浴更衣スヘシ

第五十條　病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人其他患者ニ親接セル者ノ他出スルトキハ必ス其身體ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第五十一條　自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレトモ其家ヲ出ルニ臨テ盥漱スルヲ良トス

但シ若シ誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルトキハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ噴注シ或ハ沸湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ然ル後第六十二條六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第二　死體及ヒ排泄物等消毒法

第五十二條　死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水（第二）ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成丈ケ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水（第一）ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヿヲ得ハ最良トス

第五十三條　西洋形船舶航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水（第一）ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成丈ケ前條ノ灌腸ヲ行ヒ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水（第一）ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スル上ハ地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第五十四條　死體ハ醫師確認ノ後速ニ火葬セシムヘシ火葬場ナキ地方ハ人家ヲ離レタル所ニシテ地質粃疎ナラサルノ地ヲ擇ミ簡易ノ火葬場ヲ設ケテ之ヲ燒クヘシ

第五十五條　吐瀉物ハ之ヲ便器漱盤等ニ承ケ之レト同量ノ濃厚石炭酸水（第一）（石炭酸水若シ缺乏ノ時ニ際シテハ硫酸鐵合劑、硫酸硫酸鐵合劑、亞硫酸溶液、生石灰等ヲ撰用スヘシ以下之ニ倣ヘ）ヲ灌クヘシ其屋外ニ持出ス手續ハ第廿二條ニ依ルヘシ

第五十六條　避病院及ヒ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却スルニハ其地方ニテ定メ置キタル地質粃疎ナラサル所ニ適宜ノ穴ヲ堀リ厚ク灰或ハ石灰ヲ穴底ニ敷キ乾キタル藁、鉋屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ灑キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點スヘシ火勢減スルトキハ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ全ク燒盡スルヲ期スヘシ且ツ其汚汁ノ地中ニ滲透セサル樣注意スルヲ要ス

但燃料及ヒ裝置等ハ其地ノ便宜ニ隨フヘシ

第五十七條　患者ノ入タル厠圊ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ亞硫酸溶液（第十甲）（糞汁ノ三分一）石炭酸末（第四）（糞汁ノ五分一）若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰（糞汁ノ三分一）ヲ投シテ汲取リ一定ノ所ニ埋却シ其厠圊ニハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ注入スヘシ

第五十八條　吐瀉物ノ水分多クシテ燒却シ得サルトキ之ヲ埋却スルニハ多量ノ濃厚石炭酸水（第一）若クハ亞硫酸溶液（第十甲）ヲ灌キ一定ノ場所

ニ於テ深ク埋却スヘシ

但吐瀉物ノ埋却場ハ豫メ井泉河流及ヒ人家道路等ニ接近セサル地ヲ撰定スヘシ

第五十九條　吐瀉物汚穢物ヲ運搬スルニハ其地方ニ於テ豫メ取扱人夫ノ手續ヲ定メ流行ノ間ハ毎日二三回病家ノ吐瀉物汚穢物ヲ取集メ燒却若クハ埋却セシムヘシ尤モ其運器ハ極テ注意シ臭氣ノ漏レサル樣（只臭氣ヲ恐ルヽニアラス其毒蒸發シテ空氣ニ混スルヲ恐ルヽナリ）相當ノ器ヲ用ヒ且ツ其汚汁多量ニシテ蕩溢ノ恐レアルトキハ鋸屑、落葉、枯草等ヲ入レテ之ヲ防クヘシ

但運器ノ木製ナルモノハ流行終熄後盡ク燒却シ其金屬製及陶製ノ者ハ稀薄石炭酸水（第二）若クハ亞硫酸溶液（第十乙）ヲ以テ洗淨スヘシ

第六十條　食料ニ供スヘキ物品ノ現ニ病毒ニ汚染シタルモノハ勿論病毒浸染ノ嫌ヒアルモノハ都テ之ヲ燒却スヘシ



但現ニ病毒ニ汚染セサルモ其汚染ノ疑アルモノハ「サリチル酸」溶液（三百倍ノ水ニ溶解セルモノ）ヲ以テ之ヲ洗淨スヘシ

第三　衣服臥具等消毒法

第六十一條　衣服、臥具、蚊張、疊、蓆等ノ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ

但船中積荷ノ吐瀉物ニ汚レタルモノモ亦之ニ倣フヘシ

第六十二條　衣服、臥具、蚊張等吐瀉物ニ汚穢スル少ナクシテ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水（第二）ヲ灌キ浸シ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第六十三條　衣服、臥具、蚊張等ノ少シク吐瀉物ニ汚染シ洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリテ亞硫酸瓦斯（第九）若クハ石炭酸蒸氣（第三）ヲ以

テ薫蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第六十四條　死體ニ着セシ衣服ハ其消毒法ヲ行フヿ第六十一條第六十二條及ヒ第六十三條ニ同シ

第六十五條　避病院ニ用ヒタル蚊張ハ其病室ニ在ルヿ久キヲ以テ吐瀉物ニ汚染セサルモノト雖モ都テ之ヲ煮沸シ或ハ熱氣消毒法ヲ施スヘシ

第六十六條　吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ハ患者及ヒ汚穢物ニ親接スルヿ久ク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スヿ第六十三條ニ同シ

但本文ニ掲クル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ可トス

第六十七條　看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具ハ直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々病毒浸染ノ疑ヒアルヲ以テ第六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ



## 第四　家屋船舶等消毒法

第六十八條　患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ寄セ懸ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後窓戸ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌ヒアル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨シ其他器具ハ石鹸水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初メニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第六十九條　患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルトキハ滿室ノ乘客積荷手荷物等モ皆病

毒ニ汚染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ上陸ノトキ充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薫スルノ後ニアラサレハ陸揚スルヲ許サス

第七十條　日本形小般ハ前條ノ方法ヲ掛酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ遍ク船身ヲ洗淨スヘシ

但海水モ亦消毒ノ効アルモノトス

第七十一條　避病院其他便宜ニヨリ他ノ家屋ヲ假用セシモノハ其病室ニ供セシ部分幷ニ厠房ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ後チ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ注キ石鹼水ヲ用ヒテ洗淨スヘシ尤モ亞硫酸薫蒸法充分ナルトキハ石炭酸水ヲ用フルヲ必要トセス

第七十二條　病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第七十三條　臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行終ル後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前先ツ汚穢シタル板敷、板壁及柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ



第五　什具運搬器等消毒法

第七十四條　吐瀉物ヲ承ケタル漱盤便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ以テ洗淨スヘシ其吐瀉物ニ汚染シタル紙屑、手拭其他之ニ類スル者ハ悉皆取集メ第廿二條ニ載セタル壺或ハ桶ニ投シ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ注キ吐瀉物ト共ニ之ヲ運搬セシムヘシ

第七十五條　患者必要ノ手道具ヲ携ヘ避病院ニ入ル者ハ出院ノ時必ス亞硫酸瓦斯(第九)薫蒸法ヲ行ヒ之ヲ交付スヘシ

第七十六條　患者及ヒ死體若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ヒタル艀舟車駕及運搬器等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ鹼石水若クハ沸湯ヲ

以テ洗淨スヘシ其艀舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第七十七條　病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間蒸スヘシ

第七十八條　書籍、新聞紙ノ類病室ニアリタルモノハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第七十九條　醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

## 第六　廁圊溝渠等消毒法

第八十條　患者ノ入リタル廁圊及嘔吐シタル地ニハ充分亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其廁圊ノ糞汁ハ速ニ悉皆之ヲ汲取リ相當ノ消毒ヲ行ヒ終ルノ間ハ他人ノ入ルヲ禁シ嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ掃除シ其土ヲ更換スヘシ且ツ其糞尿及ヒ嘔吐ノ穢土ハ人家遠隔ノ地ニ於テ燒却若クハ埋却スヘシ

第八十一條　糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑ヒアルモノハ速ニ之ヲ堀除ケ其周圍幷ニ庭面ノ土モ亦深ク堀取リ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ十分ニ灌注シテ人家遠隔ノ地ニ埋却シ其跡ニモ同樣ノ消毒藥ヲ注キ更ニ新土ヲ塡ムヘシ

但其消毒藥ノ量ハ其壺中糞汁ノ多少ニ因リ斟酌スヘシ大抵糞汁五分ノ一乃至三分ノ一タルヘシ嘔吐物モ亦之ニ準ス

第八十二條　若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルアルトキハ十分ニ亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ

水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場所ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルトキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ預メ戒諭シテ誤テ之ニ投薬シ或ハ陰ニ投薬スル等ノ事ナカラシムヲ要ス

## 腸室扶私

腸室扶私(英名泰裏土)ハ從來神經熱、稽留熱、腸熱、傷寒、温疫等ト稱スルモノ多ク之ニ屬ス而シテ此病ハ時ヲ撰ハス不斷散在性トナリ或ハ地方性トナリ或ハ流行性トナリテ發スト雖モ夏月旱魃後秋涼ノ候ニ於テ最モ多ク流行スルモノナリ

此病ノ流行ハ空氣ノ不潔、飲料水ノ汚濁、食物ノ不良等之レカ因トナルモノニシテ其病毒ハ特ニ患者ノ糞尿ニ因リテ傳播スル者ナリ然レトモ其毒疹窒扶私、天然痘等ノ如ク揮發性ノモノニ非サルヲ以テ豫防ノ方法モ亦其趣ヲ異ニシテ專ラ其糞尿ニ注意スルヲ以テ緊要ノ目的ト爲スヘシ



### 第一項　清潔法

第一條　腸室扶私ノ病毒ハ汚穢ノ地ニ萌動シテ飲料水ニ混シ其毒ヲ傳播セシムルノ例少カラス蓋シ是等ノ害ハ清潔法ヲ怠リ或ハ排泄物ヲ漫リニ放棄シ或ハ糞壺若クハ桶ニ破隙アル等ノ疎漏ヨリ生スルモノニシテ圊圄ト飲料水トノ注意ハ最モ肝要ナリ故ニ圊圄、芥溜、溝渠、下水等ノ掃除ヲ忽ニスヘカラス

但一所ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルヿ多人數ナルトキハ直チニ其水ヲ試驗シ不良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ

### 第二項　攝生法

第二條　此病ハ不潔ノ飲料水若クハ食物等ヨリ來ルモノナルカ故ニ消化シ易キ物ヲ食シ清淨ナル水ヲ飲ムヘシ若シ善良ノ水ヲ得難キトキハ必ス之ヲ濾過煑沸シテ用フヘシ其他胃寒、疲勞等ヲ戒ムヘシ

### 第三項　隔離法

第三條　醫師ノ腸窒扶私ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條　患者ハ成丈ケ其室ヲ異ニシ他人ト交通ヲ絶チ看護人ハ年齢四十歳以上ノ者若クハ一回此病ニ罹リシ者ヲ撰フヘシ少壯ノ者ヲ用フヘカラス

但航海船中ニ於テ發病者アルトキモ本條ニ從ヒ處置スヘシ

第五條　一家ニ數人此病ニ罹ル者アルトキハ相當ノ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避退セシムヘシ

第六條　流行盛ナルニ際シ既ニ避病院ヲ設クルニ至ラハ狹隘不潔ノ地ニ雜居シ隔離行屆キ難キモノハ入院セシムヘシ

但避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

## 第四項　消毒法

第七條　腸窒扶私患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染シタル衣服、器具等幷ニ其病室、厠圊、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一　患者及ヒ看護人等消毒法

第八條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク此患者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルトキハ沐浴換衣スヘシ

第二　死体及ヒ排泄物等消毒法

第九條　死体ハ速ニ棺内ニ斂メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヿヲ得ハ最良トス

第十條　糞屎ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ之ヲ埋却スヘシ

但埋却ノ地ハ井泉河流ノ近傍ヲ避クヘシ

第三　衣服臥具等消毒法

第十一條　衣服、臥具ノ糞尿ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ以テ洗淨シ又ハ之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四　家屋船舶等消毒法

第十二條　患者及ヒ死体ヲ置キタル家屋船舶及ヒ避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ霧シ或ハ石炭酸水（第二）ヲ以テ拭淨スヘシ

但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五　什具運搬器等消毒法

第十三條　什具運搬器ハ直ニ糞尿ニ汚穢スルニ非サレハ消毒ヲ要セサレモ其汚穢セルモノハ亞硫酸溶液（第十乙）ヲ以テ洗滌スヘシ或ハ其品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後チ石鹼水ヲ以テ洗フヘシ

但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後チ之ヲ燒却スヘシ



第六　厠圊溝渠等消毒法

第十四條　若シ誤テ患者ノ糞尿ヲ厠圊、溝渠ニ混入セシキハ硫酸鐵合劑（第五）ヲ注キテ之ヲ汲取リ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ溝渠ハ「コロール」石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

赤痢

赤痢ハ一種ノ傳染病ニシテ其病毒地中ニ萌動シ人體ヲ侵スキハ必ス大腸ニ着キテ下痢ヲ發スルモノナリ然シテ此患者ノ瀉下スル所ノ糞尿ハ其病毒ヲ含有シテ水中地中或ハ氣中ニ散漫シ因テ廣ク他人ニ侵染スルニ至ル者トス此病毒ノ發生ヲ助クルハ温熱ト濕潤トニ因ルモノナレハ熱帶地方ニ於テハ殆ント周歲絶ルコトナク且ツ多クハ惡性ナリ又暖帶地方ニ於テハ季夏初秋ノ候ニ行ハルヽヲ以テ常トス又土地ノ景況ニ從テ一地方ニ限リ流行スルヿアリ或ハ惡性ニシテ廣ク流行スルヿアリ此ノ如キ時ニ臨テハ務メテ豫防法ニ注意シ其宜キヲ得ハ良性ノモノハ之ヲ撲滅スヘク惡性

ノモノハ之ヲシテ良性ニ至ラシムルヲ得ヘシ故ニ流行ニ際シテ豫防ノ法ヲ忽ニスヘカラス

第一項　清潔法

第一條　此病毒ハ汚濕ノ土地ニ萌動シテ氣中或ハ水中ニ混シ終ニ人體ヲ侵襲スルモノナルカ故ニ厠圊、溝渠、芥溜、下水及ヒ魚市、屠場等ノ不潔ナル場所ハ勿論殊ニ監獄、製造所等ハ最モ掃除ヲ嚴ニスヘシ

但一所ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルヿ多人數ナルトキハ直チニ其水ヲ試驗シ不良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ且ツ清潔法ノ細目ハ能ク虎列刺ノ部ヲ參考シテ之ヲ斟酌スヘシ

第二項　攝生法

第二條　此病ハ老少ノ別ナク皆之ニ感スルノ素因アルカ如シト雖モ就中一回之ヲ患ヘシ者及ヒ不潔ノ地處ニ住居スル者不良ノ水ヲ飲用スル者及ヒ露臥、夜行、過度ノ勞力等都テ不攝生ノ者ハ之ニ感シ易シトス又流



行ノ際ニ當テハ下痢秘結モ亦此病ノ誘因トナル故ニ宜ク之ニ注意シテ攝生ノ法ヲ守ルヘシ殊ニ此病ニ罹リシ者快復ニ向ハントスルトキハ更ニ飲食ノ攝生ヲ嚴ニスヘシ些少ノ不消化物ヲ食フモ亦此病ノ再發ヲ促スノ恐アレハナリ

第三項　隔離法

第三條　此病毒ハ專ラ其瀉下物ニ在ルヲ以テ之ニ汚染セル衣服、便器、醫術器械等ハ勿論其他ノモノモ亦皆傳播ノ媒介トナル故ニ患者ヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ第一要法トス其惡性ノモノハ最モ此注意ヲ忽ニスヘカラス

第四條　醫師ノ赤痢ト診斷シタル時ハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ則チ其病名票ヲ去ルヘシ

第五條　患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成丈ケ之ニ接近スヘカラス又老幼等ハ速ニ他家ニ避退セシムヘシ

第六條　若シ一家ニ數人此病ニ罹ル者アルトキハ看護人ヲ留メ其他ノ者ハ他家ニ避退セシムヘシ

第七條　患者ハ必ス他人ト厠圊、便器等ヲ共用セシムヘカラス其瀉下スル所ノ糞尿ハ成丈ケ之ヲ便器ニ承ケ速ニ消毒法ヲ行ヒ之ヲ人家遠隔ノ其ニ搬送シテ燒却スヘシ

但便器ハ成丈ケ金屬製或ハ陶製等ニシテ蓋アルモノヲ良トス

第八條　患者治癒若クハ死亡ノ後ト雖モ病室ニ消毒法ヲ行フニアラサレハ其中ニ起臥スヘカラス

第九條　航海船中ニ患者アルトキハ看護人ヲ定メ便器ヲ以テ其瀉下物ヲ承ケ每回必ス海中ニ投棄スヘシ

但港灣及ヒ河湖等ニ於テハ瀉下物ヲ投棄スヘカラス最寄陸地ニ於テ之ヲ燒却スヘシ



第十條　避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十一條　狹隘不潔ノ住居若クハ製造所、會社、學校、旅店等ニ於テ發病スル者ハ成丈ケ避病院ニ送致スヘシ

第十二條　避病院看護人ノ分配、來訪人ノ處置等ハ虎列刺ノ部第四十一條ヨリ第四十四條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十三條　普通病院アル地方ニ於テハ院內ヲ區隔シ避病室トナシ患者ヲ入ルヘシ又人家稀疎ノ村落ニ於テハ相當ノ空屋ヲ用フルモ可ナリ

## 第四項　消毒法

第十四條　患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染セル衣服、臥具等幷ニ病室、厠圊、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一　患者及ヒ看護人等消毒法

第十五條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施セシ衣服ヲ着スヘシ瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第十六條　看護人及ヒ患者死體運搬人ノ他人ト交通スルトキニハ必ス沐浴・更衣スヘシ

第二　死體及ヒ排泄物等消毒法

第十七條　死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成丈ケ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クコトヲ得ハ最良トス

但此患者ノ死體ハ最モ腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ斂メ且ツ成丈ケ速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬セシムヘシ

第十八條　便器ニ承ケタル瀉下物ハ濃厚石炭酸水(第一)或ハ硫酸鐵合劑(第五)硫酸硫酸鐵合劑(第六)亞硫酸溶液(第十甲)等ヲ混和シ屋外ニ持出シ壺或ハ桶ニ入レテ密蓋シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒却スヘシ其燒却法ハ虎列刺ノ部第五十六條ヲ參照スヘシ

第十九條　甚シク瀉下物ニ汚染シタル紙及ヒ綿布等ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

第三　衣服臥具等消毒法

第二十條　衣服、臥具、蚊張、疊、蓆等ノ甚シク瀉下物ニ汚染シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其汚穢スル少ナクシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クヿ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ若シ石炭酸水等ノ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第廿一條　其少ク瀉下物ニ汚染シ洗濯スヘカラサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸シ或ハ熱氣消毒

法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第廿二條　死体ニ着セシ衣服ノ消毒法ハ前二條ヨリ之ヲ施スヘシ

第廿三條　瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ハ患者及ヒ汚穢物ニ久シク觸接セルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スヿ第二十條第廿一條ニ依ルヘシ

但日々衣服ヲ更換スル者ハ沸湯ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第廿四條　看護人及ヒ患者死體運搬人ノ衣服、手道具等直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薫蒸シ自光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四　家屋船舶等消毒法

第廿五條　患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若シハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シ





ヲ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ輕症痢病ノ如キハ必スシモ本條ノ處置ヲ要セス醋水若シハ「コロール」水ニテ室内ヲ拭淨スルヲ以テ足レリトス

第廿六條　患者アリタル船室ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

第廿七條　普通病院ニシテ區隔セシ病室及ヒ一時假用セシ家屋等ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

但病室ハ數多ノ患者交々此内ニ入ルヲ以テ惡性ノ痢病ナラサルモ尚ホ前條ノ消毒法ヲ用フヘシ

第五　什具運搬器等消毒法

第廿八條　便器ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水（第二）亞硫酸溶液（第十乙）ヲ以テ洗滌スヘシ

第廿九條　患者及ヒ死体若クハ瀉下物ニ汚染シタル物品ヲ運ヒタル諸器ハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第三十條　病室内ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水（第二）或ハ亞硫酸溶液（第十乙）ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗淨スヘシ

第六　廁圊溝渠等消毒法

第卅一條　患者ノ入リタル廁圊ハ他人ヲ入ルヲ禁シ亞硫酸溶液（第十甲）或ハ硫酸鐵合劑（第五）ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取リ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ而シテ其糞壺ニハ復タ同樣ノ消毒法ヲ行フヘシ

第卅二條　糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ堀除シ其周圍ノ土ヲ堀取リ濃厚石炭酸水（第一）或ハ亞硫酸溶液（第十甲）ヲ充分ニ灌注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

但消毒藥ノ量ハ其壺中糞量五分一乃至三分ノ一タルヘシ

第卅三條　若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルアルトキハ充分ニ亞硫酸溶液（第十甲）或ハ硫酸鐵合劑（第六）ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ塲所ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルトキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ豫メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

實布垤利亞

實布垤利亞ハ一種ノ猛劇ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾、涕汁等ニ含トリ又呼出スル所ノ空氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ル、時ハ老少

ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼稚ノ者ハ之ニ罹ルコト最モ多クシテ且ツ危險ナリトス抑此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關渉スルヿナク不斷散在スルヿアリ又一時ニ廣ク流行スルヿアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ之カ爲メニ其部ノ壞爛ヲ致シ甚シキモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風、喉痹、馬痹風、纏喉風、咽氣ト唱フルモノヽ中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尚ホ感染ノ恐アルモノニシテ且毒久ク消滅セサルカ故ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項　清潔法

第一條　此病流行ノ際ハ務メテ一般清潔法ニ注意シ既ニ發病スルトキハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラス家屋、衣服等清潔ニシテ且隔離法充分ナルトキハ廣ク流行ニ至ラスシテ消熄スルヲ得ヘシ

第二項　攝生法

第二條　此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽吭炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易シ故ニ專ラ口内、喉頭、氣管等ノ炎症ヲ誘發スヘキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス

但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ冒觸シ或ハ苛烈ノ飲食料ヲ用ヒ或ハ高談放歌シ或ハ幼稚ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ發シ讀書唱歌セシムル等ニシテ皆宜シク之ヲ戒シムヘシ

第三項　隔離法

第三條　醫師ノ實布垤利亞ト診斷スルトキハ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條　此病ハ患者ニ接觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接

近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サクヘシ

但室內ノ空氣ハ常ニ清鮮ナラシムルヲ要ス

第五條　病兒ハ健兒ト共ニ遊戲セシムヘカラス又學校等ニ行カシムヘカラス

第六條　病室內ニハ不用ノ衣服及ヒ器具ヲ置クヘカラス

第七條　患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條　若シ其流行ノ勢盛ニシテ避病院ヲ要スルヿアルトキハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ空屋ヲ以テ之ニ充ル等便宜ニ任スヘシ

第九條　避病院ヲ設ルトキハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者死亡シタルトキ之ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クヘシ

第十條　避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンヿヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ但屢々交替スルハ許スヘカラス



第四項　消毒法

第十一條　此病毒ハ患者ノ痰唾及ヒ呼氣或ハ涕汁等皆之レカ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必ス消毒法ヲ行フヘキモノトス

第十二條　消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一　患者及ヒ看護人等消毒法

第十三條　患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死体取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第十四條　自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルトキハ必ス鹽漱スヘシ

第二　死体及ヒ排泄物等消毒法

第十五條　死体ハ醫師確認ノ後速ニ棺內ニ斂メシムヘシ若シ濃厚石炭酸

水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルヿヲ得ハ最良トス

但死体ハ成丈ケ火葬スルヲ良トス

第十六條　痰唾及ヒ涕汁ヲ拭ヒタル手巾及ヒ紙、綿布ノ類ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

但水分剩多ニシテ燒盡シ難キトキハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

第三　衣服臥具等消毒法

第十七條　衣服、臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スルヲ良トス其僅ニ穢レタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置クヿ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且ツ洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薫蒸セシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四　家屋船舶等消毒法

第十八條　此病毒ハ極メテ頑強ニシテ善ク粗糙ナル物ニ附着スルカ故ニ最モ注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第十九條　患者及ヒ死体ヲ置キタル病室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後チ窓戸ヲ開キ疊、蓆、壁、障子等ニハ更ニ薄稀石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及ヒ板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及ヒ普通病院ヲ區隔セシ病室又ハ臨時假用セル家屋モ亦タ之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ

第五　什具運搬器等消毒法

第二十條　病室ニ用ヒタル什具飲食器及ヒ玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其

洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ（濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス）亞硫酸瓦斯（第九）或ハ石炭酸蒸氣（第三）ニテ一時間薫蒸スヘシ然ラサレハ室外ヘ出スヘカラス

第廿一條　患者ノ玩弄セシ圖畫書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣（第三）或ハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ薫蒸スヘシ

第廿二條　患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其艀舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第廿三條　醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタルモノ例ヘハ壓舌篦ノ如キハ總テ稀薄石炭酸水（第二）ヲ以テ洗フヘシ

## 發疹窒扶私

發疹窒扶私英名（泰扶私）ハ特異ノ揮發性傳染毒ニシテ飢饉熱、軍陣疫、囚獄熱等熱發ノ稱アリ從來腐敗熱、神經熱、發斑熱、溫疫、傷寒ト唱ヘシ者ノ





中ニモ亦此病アルヿ多シ其病タルヤ地方ヲ撰ハス氣候ニ關セス流行スルト雖モ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身體ノ不潔或ハ飲食ノ不良不足及ヒ過度ノ勞力、露臥、夜行其他身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スル者ナリ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナク其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行屆サルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ盛ニシ動モスレハ年ヲ亘リ消滅セサルヿアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスヘカラサルモノトス

### 第一項　清潔法

第一條　發疹窒扶私ノ病毒ハ不潔、狹隘、空氣ノ汚濁ヨリ生スルモノナレハ其發現スルニ當テ囚獄、兵營及ヒ製造所、貧院、棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋タリ𪜈掃除ニ怠ラス務メテ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ疏通セシムヘシ最モ其身體ニ切ナル清潔法ヲ至要トシ日々沐浴シ衣服ノ洗濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病毒ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢

物即チ厠圊、芥溜、溝渠等ノ掃除ニ注意ヲ加フヘシ

第二條　避病院病室ニ於テ用フル所ノ臥具ハ無色若クハ淡色ノ者ヲ要スヘシ其汚染ノ見易キカ爲ナリ自宅療養ノ者モ亦同樣ノ注意ヲ要スヘシ

第二項　攝生法

第三條　此病ニ感スルノ素因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉ノ窮民、軍陣ノ兵卒、監獄ノ囚徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ不良ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最甚シキハ食物ノ不足ト不良トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其食品中成タケ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ者ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ

第四條　兵卒ノ軍陣ニ在ルトキハ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ遑ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スルトキハ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成タケ無用ノ露臥過勞ヲ愼ミ且ツ飲料ノ良否ニ注意ヲ加フヘシ囚獄、懲



役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通及其食物ニ注意ヲ加ヘ工役等モ過度ナラシメサルヲ要ス一旦病毒ノ蔓延スルニ至テハ高貴豪富ノ人ト雖モ猶其傳染ヲ免ルヽ能ハス是各人其素因アルヲ證スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身體ノ溫度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ攝シテ過度ノ勞力ヲ爲ス可ラス且夜氣風雨等感冒及身体ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒ムヘシ

第三項　隔離法

第五條　醫師發疹窒扶私ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第六條　發疹窒扶私ハ其毒揮發性ニシテ患者ノ皮膚、蒸發氣、呼氣ヨリ發スルモノナレハ直チニ患者ニ接觸セサルモ尙ホ之ヲ感受スルヿアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病毒ナリト看做スヘシ又患者數名ヲ狹隘ノ一室

ニ入ルキハ病毒稠厚トナリ感染ノ勢益々烈シク此室内ニ入ルモノ忽チ其病害ヲ受クルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且ツ相當ノ廣室ニ移サヽルヘカラス

第七條　病室ハ適宜ニ窓戸ヲ開キ換氣法ニ注意シ常ニ其内ノ空氣ヲ清鮮ナラシメ看護人ノ外必ス接近セシムヘカラス

第八條　家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成タケ速ニ他家ヘ避退セシムヘシ否ラサレハ啻ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖モ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルトキハ戸外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且看護人ハ成タケ更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條　病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病毒ヲ包含シ易キカ故ニ必用ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス



第十條　此病ハ死體ヨリモ尚ホ其病毒ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノ事ハ決シテ爲スヘカラス

第十一條　患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戸ヲ開放シ風氣ヲ流通スヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖モ即チ室内ニ起臥スルトキハ傳染ノ恐ナキニアラサルカ故ナリ

第十二條　船舶中ニ此病ヲ發スル者アルトキハ速ニ其室ヲ異ニシ看護人ノ外交通ヲ絶ツヿ尚ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

但此病ハ動モスレハ衆人群集セル船室ニ發シ又船中飲食ノ不良不足等其素因トナルカ故ニ若シ患者アラハ速ニ之ヲ隔離シ室内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條　製造所、會社、學校、旅店等其他衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成タケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルヲ良トス若シ避病院ナク他ニ相

當ノ空屋ナラハ直チニ此ニ送致スヘシ然レトモ其發病セシ所ノ室廣濶ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必シモ他ニ送ルヲ要セサルヘシ

第十四條　避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ揭クヘシ

第十五條　避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後燒却スルヲ良トスレハナリ

第十六條　避病院ノ病室ハ最モ闊大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事務所、看護人休息所並ニ簡易ノ蒸蒸室等ヲ設クヘシ（虎列刺第三十六條參照）

第十七條　避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人、見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戸ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ

第十八條　避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ之ニ遷シ病室ニ留置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ弔者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其弔者ハ成タケ速ニ來ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ逞フスルモノナレハ必ス久ク留置クヘカラス

第十九條　人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苫葺等ノ屋舍ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條　尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第廿一條　避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人ニ一人ヲ附シ輕症

ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第廿二條　避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンヿヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ

但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要ス且屢々更換スルヲ許スヘカラス

第廿三條　避病院ニ携ヘ來リシ衣服、手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

第廿四條　患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成タケ室内ニ入ルヲ許サヽルヲ良トス

第廿五條　此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルトキハ其衣服等ニ附着セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成タケ衆人群集スルノ事業差止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人



數旅行スルヲ差止ムルヿアルヘシ

## 第四項　消毒法

第廿六條　此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身體ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊、蓆、屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久シク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ近接セルモノハ都テ病毒ト同視シ消毒法ヲ行フヲ要ス

第廿七條　消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一　患者及ヒ看護人等消毒法

第廿八條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退分ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒注ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及患者死體運搬人並ニ避病院ノ醫師死体取扱人及船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第廿九條　自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者

親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成タケ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第二　死体及ヒ排泄物等消毒法

第三十條　死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

但死体ハ成タケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第卅一條　西洋形船舶航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スルトキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第卅二條　此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖ヒ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成タケ速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置クヘカラス





第三　服具衣臥等消毒法

第卅三條　患者ノ久シク着シタル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死体ニ直接シタル臥具、避病院ニテ用ヒタル臥具、蚊張等ハ成タケ燒却スルヲ良トス其燒却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置ク二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熟湯中ニ入レ一時以上煮沸スヘシ

第卅四條　同前ノ品種ニシテ洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四　家屋船舶等消毒法

第卅五條　患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚

セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但シ金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第卅六條　患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルトキハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト見做シ乘客、手荷物ハ上陸ノトキ充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ



石炭酸蒸氣(第三)ヲ薫スルノ後ニ非サレハ陸揚スルヲ許サス

第卅七條　日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗フヘシ

第卅八條　尋常家屋ヲ避病院ニ假用セシモノハ其病室トナセシ部分ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ洒キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第卅九條　病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十條　避病院ハ流行ノ後成タケ燒却スルヲ良トス否ラサレハ先ツ汚穢シタル板敷、板壁及柱等ハ濃厚石炭酸水(第二)又ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝シ然ル後之ヲ取毀ツヘシ

## 第五　什具運搬器等消毒法

第四十一條　病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルトキハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(潤濕ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間蒸蒸スヘシ

第四十二條　書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルトキハ之ヲ繙展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條　醫術器械及ヒ職人手道具其他木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

## 痘瘡

痘瘡ノ病毒ニ揮發性及ヒ固性傳染毒ニシテ全ク患者ノ身体ヨリ發出シ又ハ死体及ヒ痘漿、痘痂ニ直接シテ感染スルノミナラス其患者ニ接觸セシ



衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室内ノ空氣、塵埃モ之レカ媒介トナリテ其病毒ヲ傳送スル者トス

痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルトキハ其勢猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦手ヲ束テ其術ヲ施スヘカラサルアリ但人生一回此病ニ罹ルトキハ感受性ヲ脫盡シ得ルヲ以テ英國ノ醫博士「ジエンヲル」氏牛痘接種ノ法ヲ發明セシ以還其善感スル者ハ復タ天然痘ニ感スルナシ故ニ此法行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶マ流行スルモ其病性劇惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至ルヲ證スルニ足ル是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫防ノ第一トス

### 第一項　清潔法

第一條　此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラス但患者ノ居室ヲ清潔ニシ痘漿等ニ汚染セル衣服ヲ屢々更換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ專ラ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要

スルコアルノミ

## 第二項　攝生法

第二條　前條載スルカ如ク牛痘ヲ接種シテ其素因ヲ脫盡スルトキハ復タ天然痘ニ感スルヿナシ然レ𪜈一回種ヲ以テ足レリトスヘキニ非ス再三接種シ其善感ノ確徵ヲ取ラサルヘカラス唯衣服、飲食等ノ攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘキニアラス

## 第三項　隔離法

第三條　醫師痘瘡ト診斷シタルトキハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ病名票ヲ去ルヘシ

第四條　痘瘡ノ毒ハ患者ノ身體又ハ其衣服、器具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成ルタケ患者ニ接近シ又





ハ患者ノ用ヒタル衣服、器具等ニ觸ルヽヘカラス

第五條　自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成ルタケ接近スヘカラス己ムヲ得サル事故アルノ外ハ他人ト交通ヲ絶チ殊ニ未痘者ヲ近クヘカラス

第六條　家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外成タケ之ヲ室内ニ入シムヘカラス

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條　病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條　患者亡死ノ後チ其屍傍ニ接近シ幷ニ死體ニ沐浴セシムル等ハ爲サヽルヲ良トス

第九條　縱令輕症ナル患者ト雖モ落痂後一週日ヲ經ルニアラサレハ學校其他衆人群集ノ場所ニ行カシムヘカラス

第十條　蚊蠅ハ好ンテ患者ノ皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介ヲナスモノ

ナレハ病床ニハ常ニ蚊張ヲ張リ蚊蠅及ヒ其他ノ小蟲ヲモ防クヘシ

第十一條　病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痊者ヲ入ルヘカラス

第十二條　西洋形船舶航海中若シ復タ發病者アル𪜈ハ其病室ヲ異ニシ看護人ノ外他人ト交通ヲ絶ツヿ猶ホ人家ニ於ケルカコトクスヘシ

第十三條　製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者幷ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法行屆カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサル𪜈ハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第十四條　避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ揭クヘシ

第十五條　避病院ヲ新ニ構造スル𪜈ハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ闊大ニシ且板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ其屋根ハ板



葺、苫葺等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ闊大ナルヲ要スルヲ以テ凡ソ患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ設建スヘシ

第十六條　避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令輻湊スルトモ一坪若クハ一坪半ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ

第十七條　避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人、見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第十八條　避病院ハ窓戸ヲ闊大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ温度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但室内ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ

第十九條　避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタル𪜈ハ

直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ルヽカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其弔者ハ成タケ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條　尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第廿一條　人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設クルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第廿二條　避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人ニ一人ヲ附スルノ割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且ツ其表記アル衣服ヲ着セシメ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス



第廿三條　避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲ンヿヲ望ムトキハ既痘者ニ限リ之ヲ許スヘシ但屢々更替スルヲ許スヘカラス

第廿四條　患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許スト雖モ成タケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スヘシ

第廿五條　流行ノ勢猛劇ナルトキハ祭禮、劇場等衆人群集ノ事業ヲ差止メ學校モ成タケ之ヲ閉ツルヲ良トス

## 第四項　消毒法

第廿六條　此病毒ハ膿漿、痂痘、呼氣、津唾及ヒ死體ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具、其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成タケ燒却スヘシ

第廿七條　消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一　患者及ヒ看護人等消毒法

第廿八條　患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院

ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹸水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者屍體運搬人並ニ避病院ノ醫師、死體取扱人等ノ他人ニ交接スルトキモ亦此法ニ從フヘシ

第廿九條　自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹸水或ハ醋水ニテ顏面及ヒ手ヲ洗フヘシ

## 第二　死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條　死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第卅一條　死體ハ成タケ火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ其病毒數十年經ルモ消滅セサルモノトス

第卅二條　西洋形船舶航海中ニ死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之レヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スルトキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ屆出處分スヘシ

第卅三條　落痂及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿、布、紙等ノ斷片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ燒却スヘシ

## 第三　衣服臥具等消毒法

第卅四條　患者ノ久シク用ヒタル衣服、臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊張ノ甚シク病毒ニ浸染シタル者幷ニ避病院ノ臥具、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシ

第卅五條　患者ノ着シタル衣服、臥具及ヒ手巾、蚊張等又ハ死体ニ着セシ衣服等ノ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クヿ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水

ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煑沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第二)ヲ以テ薫蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第卅六條　避病院ノ醫師、看護人及ヒ死体運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

## 第四　家屋船舶等消毒法

第卅七條　患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具、石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ



但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法ヲ適宜撰用スヘシ

第卅八條　患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等各室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ソト彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルトキハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薫スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第卅九條　日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗淨スヘシ

第四十條　避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ假用セシモノハ其病室ニ供セシ分部ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫